

5. 公共交通の利用実態・ニーズ把握調査

和水町における公共交通の利用実態およびニーズを把握するため、町民や地域の代表者、交通事業者等を対象とした調査を実施しました。

以下に各調査の概要および結果を記載します。

◆実施した調査

- (1) 住民アンケート調査
- (2) 地区代表者へのグループインタビュー調査
- (3) 交通弱者等への戸別訪問調査
- (4) 交通事業者・町内施設等へのヒアリング調査

◆各調査の概要

項目	住民 アンケート調査	地区代表者への グループインタビュー調査	交通弱者等への 戸別訪問調査	交通事業者・ 町内施設等への ヒアリング調査
調査 目的	町民の生活行動パターン、外出状況など、公共交通の利用可能性を把握	各地域での移動に困っている方の名前等の聞き取りと地域での取り組みや問題点の把握	公共交通がないと困る交通弱者の公共交通に対する具体的なニーズを把握	事業者や町内関係者からみた公共交通の課題、本事業への協力可能性を把握
調査 方法	郵送による 配布・回収	グループ インタビュー方式	直接面談方式	直接面談方式
調査 対象	和水町在住 世帯代表者 全 3,882 世帯 (8 月時点)	・各行政区長 ・民生委員 ・社会福祉協議会	・グループインタビュー調査で把握した交通弱者	・バス、タクシー事業者 ・主要施設 ・和水町の各課、及び関係団体

(1) 住民アンケート調査

1) 調査概要

①調査目的

町内在住の全世帯を対象として、生活行動パターンや公共交通の利用実態、今後の利用の可能性等を把握するためのアンケート調査を実施しました。

②調査日

平成 27 年 8 月

③調査方法

和水町の全 3,882 世帯（8 月時点）への郵送による配布、回収

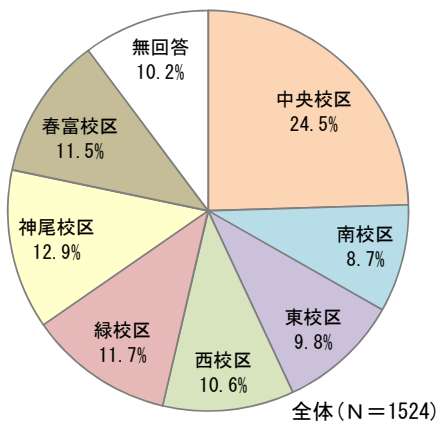
④回答者数

有効回答率：39.3%（配布数 3,882 票 有効回収数 1,524 票）

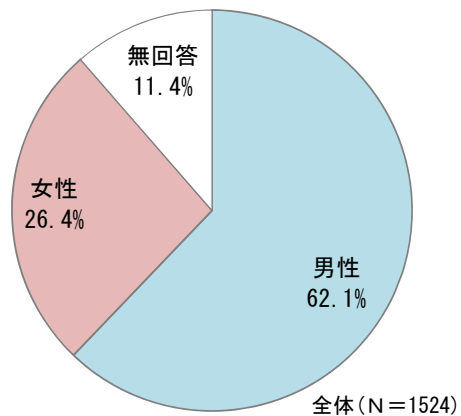
2) 調査結果

①回答者の属性

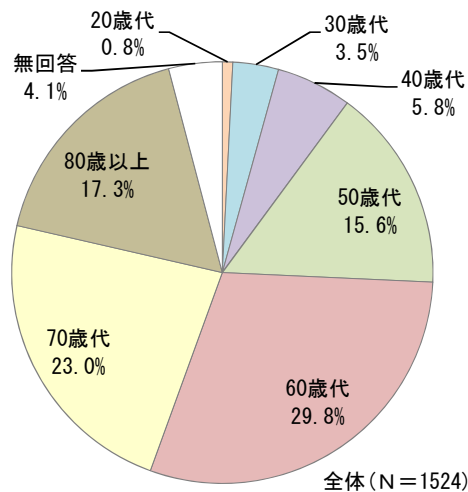
居住校区は、全体の約 4 分の 1 (24.5%) を中央校区がしめています。性別は、男性が約 6 割 (62.1%)、女性が約 3 割 (26.4%) の回答状況となっています。年齢は、回答の約 7 割 (70.1%) が 60 歳代以上です。職業では、「無職」の方の回答が全体の 3 割以上 (35.6%) をしめています。



▲居住校区

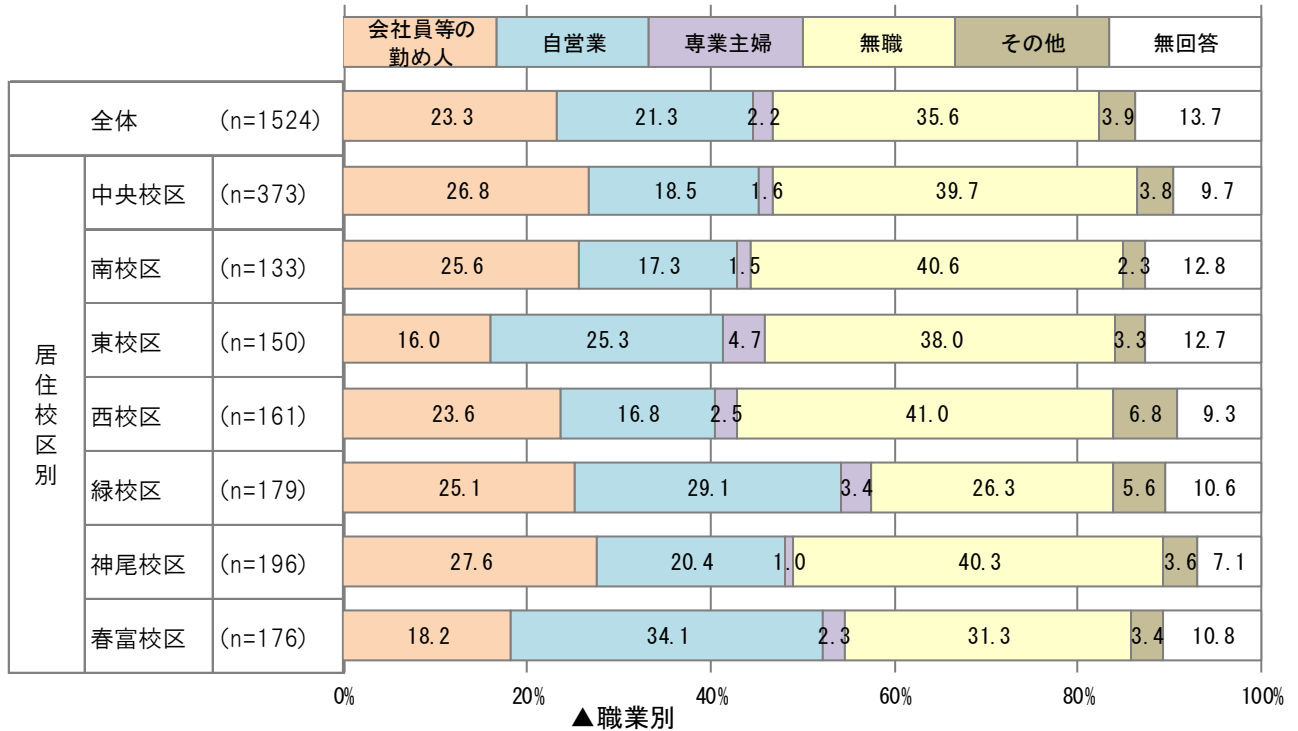


▲性別



▲年齢構成

5. 公共交通の利用実態・ニーズ把握調査

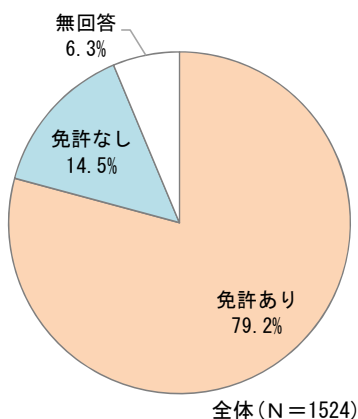


※居住校区別では、校区不明の回答を除く

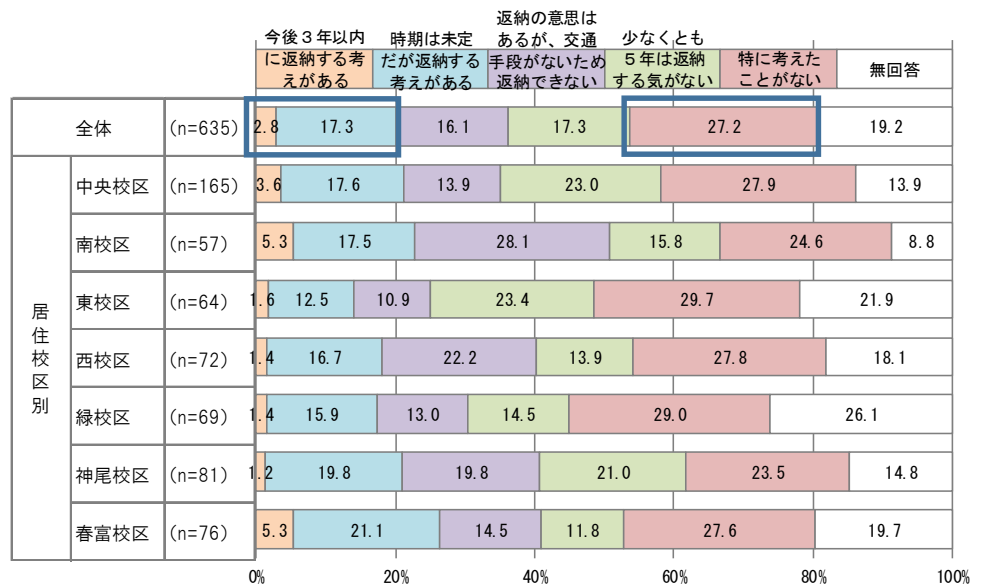
②運転免許の有無、65歳以上における今後の運転免許の返納意志

運転免許の有無では、全体の約8割(79.2%)が運転免許を持っており、14.5%が運転免許を持っていない現状にあります。

65歳以上における免許保有者の返納意思に関しては、約2割(20.1%)が返納する考えを持っています。また、免許保有者のなかで16.1%が「返納の意思はあるが、交通手段がないため返納できない」と回答しています。一方で、約3割の方が「特に考えたことがない」と回答しています。



▲運転免許の有無

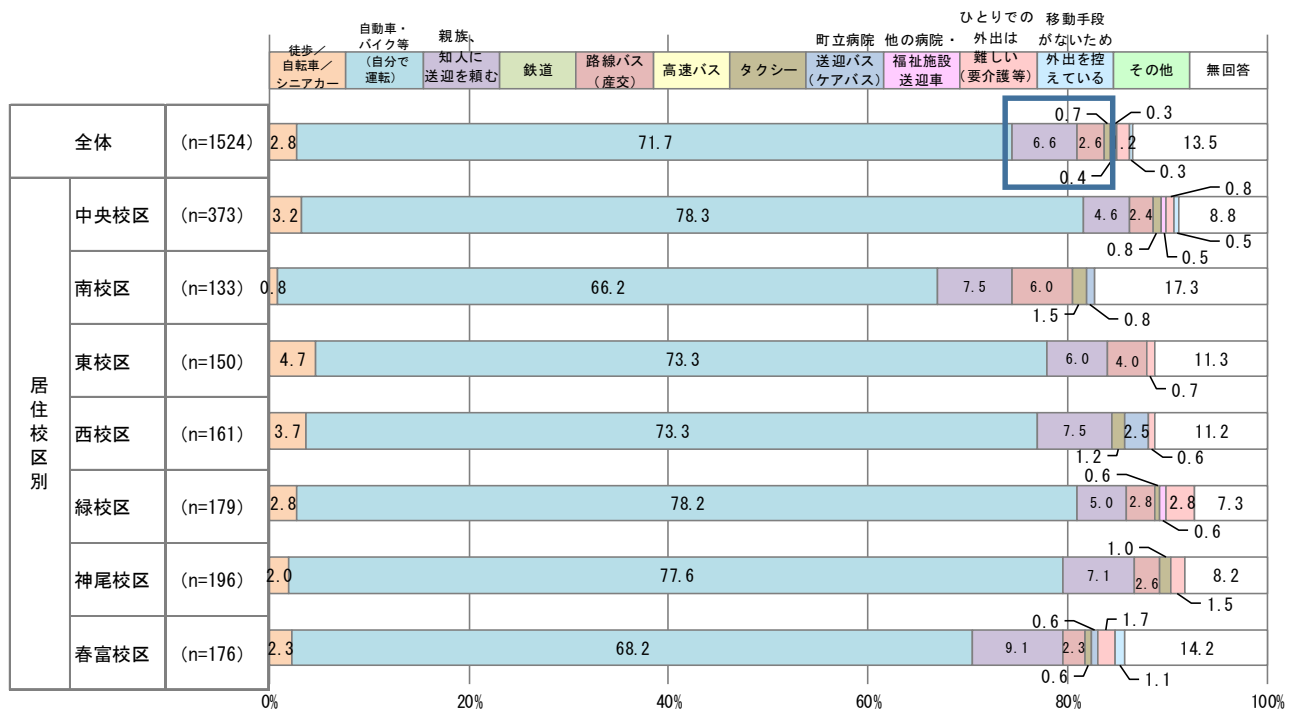


※居住校区別では、校区不明の回答を除く

③ 普段の移動状況とその満足度

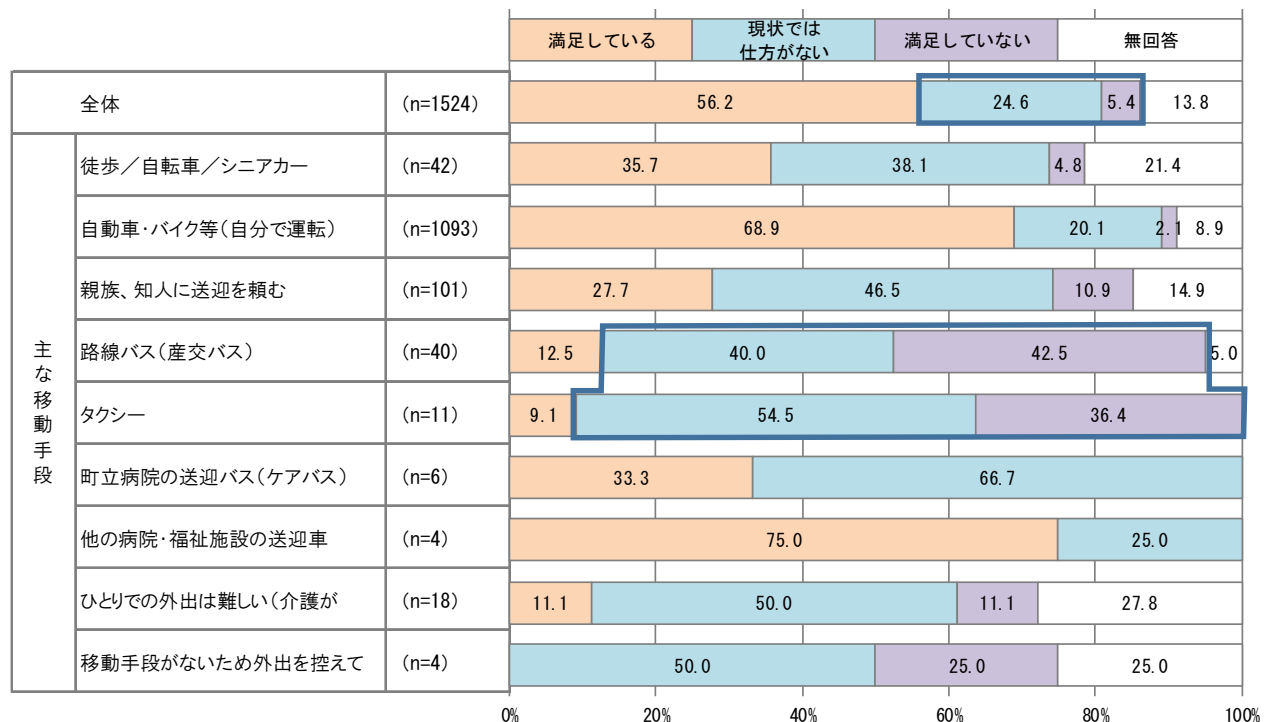
交通手段については、全体の約 7 割(71.7%)が「自動車・バイク等（自分で運転）」と回答しており、「親族・知人に送迎を頼む」が 6.6%、「路線バス」を利用すると回答した方が 2.6%、「タクシー」を利用すると回答した方が 0.7%、「町立病院送迎バス（ケアバス）」を利用すると回答した方が 0.4%と、**移動の際に自動車等を運転していないと考えられる方が 15.3%**います。

普段の移動状況の結果に対して**全体の 30%が「現状では仕方がない」、「満足していない」**に回答しており、また、「路線バス」や「タクシー」利用者の 8 割以上が「現状では仕方がない」、「満足していない」と回答しています。



▲ 普段の移動状況

※居住校区別では、校区不明の回答を除く



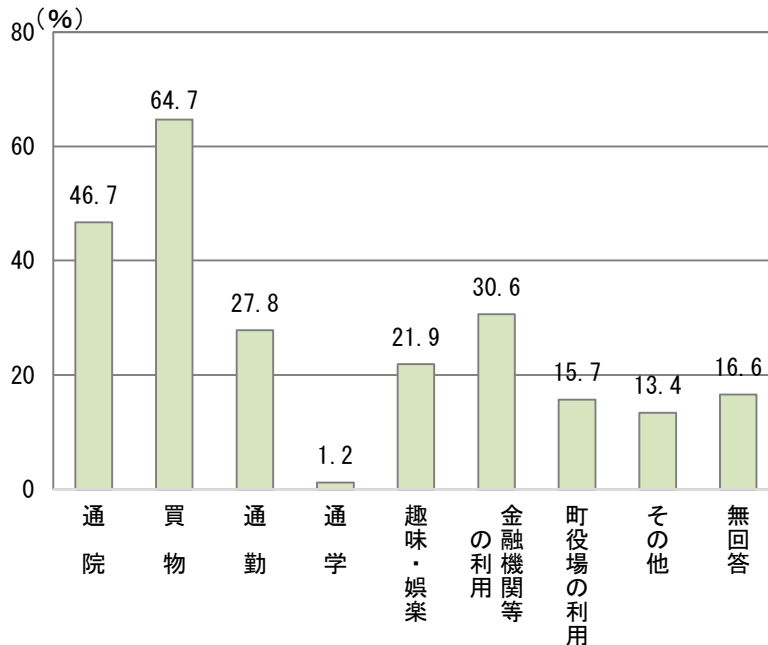
▲ 普段の移動状況による満足度

※主な移動手段では、不明の回答を除く

④主な外出目的、頻度

主な外出目的については、「通院」、「買物」が多く、次いで「金融機関等の利用」と「通勤」が多い結果となりました。具体的な買物先には、スーパー菊屋（149件）やゆめマート（51件）の回答が多く、また、病院では和水町立病院（97件）の回答が多いです。

主な移動手段における外出頻度では、路線バスやタクシーといった、**自分で自由に移動できない交通手段を主に利用する方の回答で「週に2～3日」以下の回答が16.7%以上**となっています。

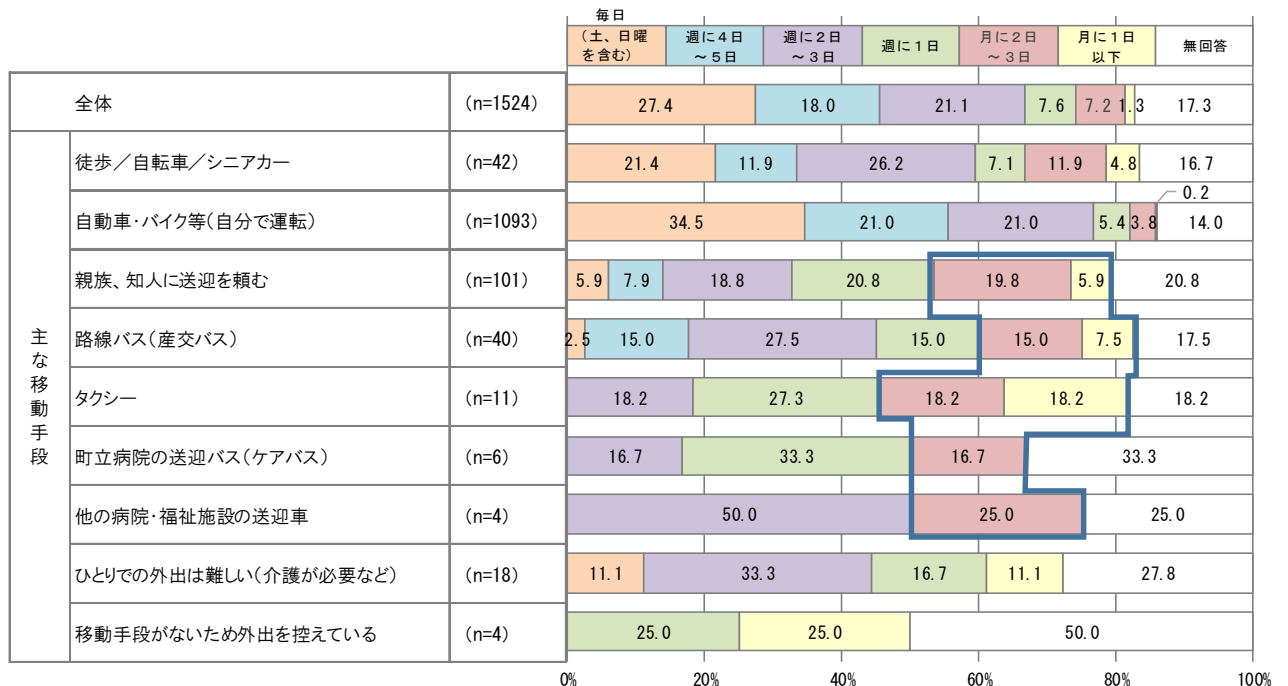


※1. 複数回答のため、割合の合計は100%を超える。

※2. 回答者に学生はいないが、通学と回答したものもある。

※3. 金融機関はJ A、銀行、郵貯等を指す。

▲主な外出目的

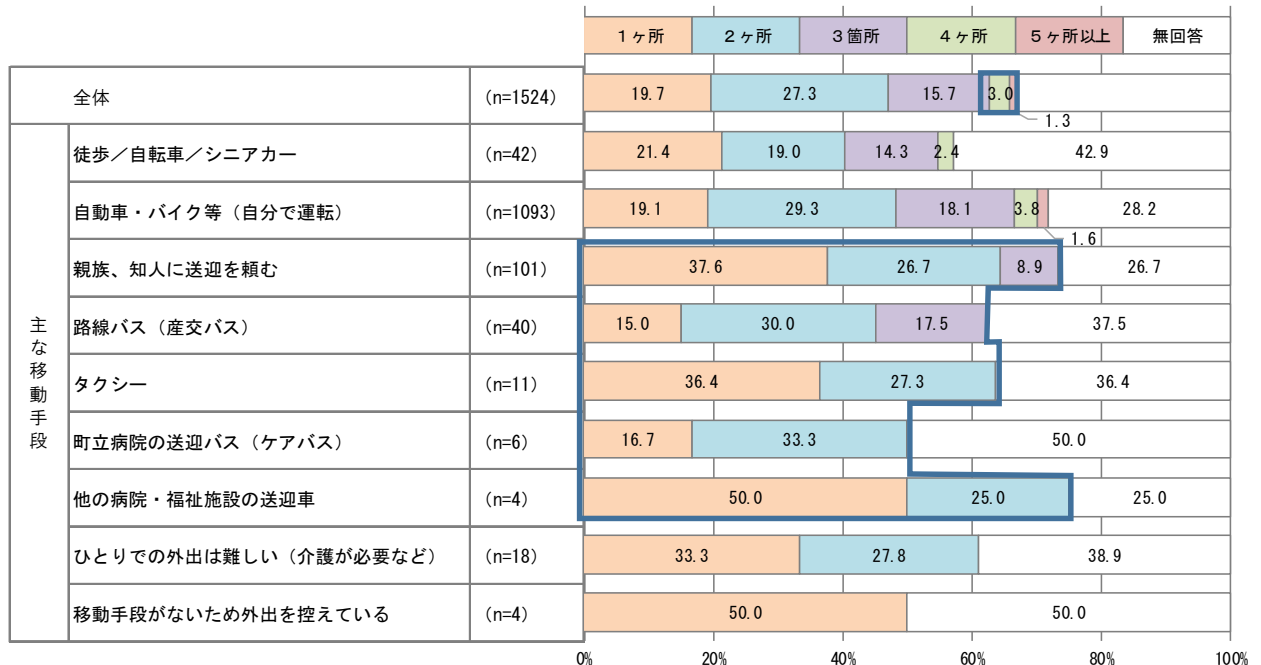


▲主な移動手段における外出頻度

※主な移動手段では、不明の回答を除く

⑤1日の外出で訪れる施設数

自動車・バイク等や、徒歩・自転車・シニアカーといった自由度が比較的高い移動手段に関しては、4施設に訪問すると回答した方が全体のうち、3.0%います。一方で、自分で自由な移動ができない親族等の送迎やバス等の利用者は3施設以下の移動状況にあります。



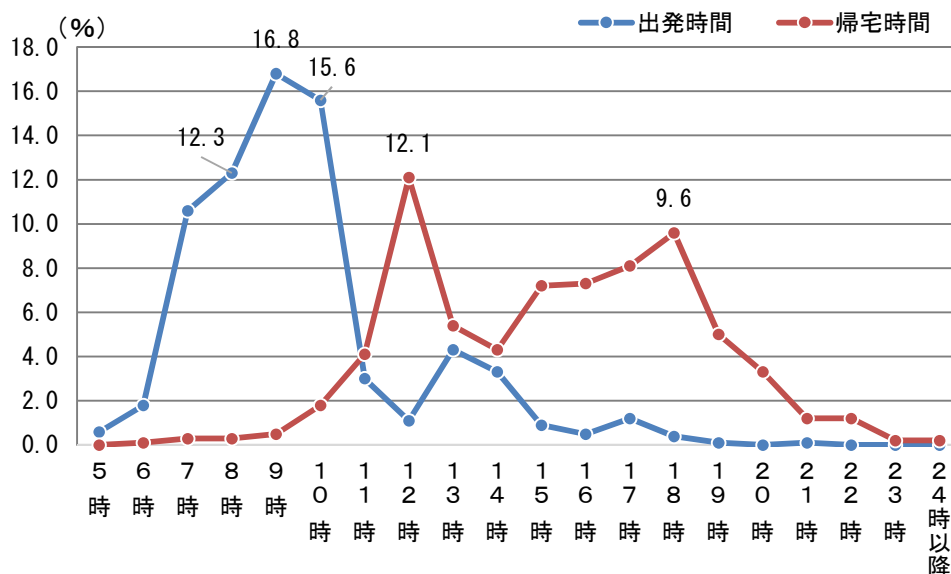
▲移動手段による1回（1日）の外出で訪れる施設数

※主な移動手段では、不明の回答を除く

⑥1回（1日）の外出の出発時間、帰宅時間

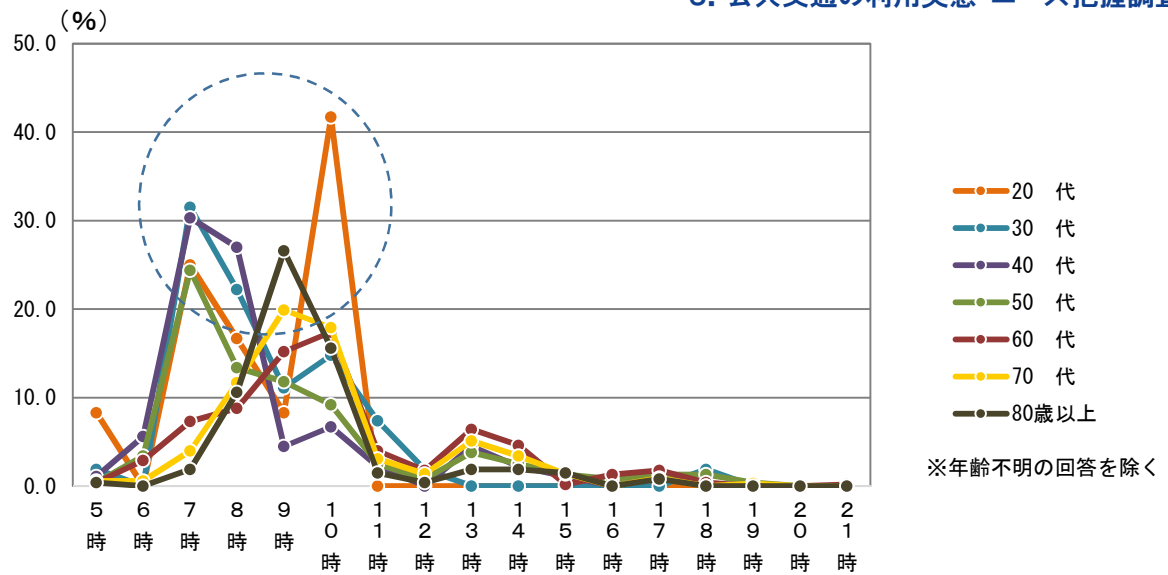
主な外出時間帯について、**出発時間は8～10時台が多く、なかでも9時台（16.8%）が最も多いです。**

一方、帰宅時間は12時（12.1%）と18時（9.6%）と、昼の時間帯と夕方の時間帯に分かれています。**年代別に見ると、60代以上は12時台がピークとなっており、50代以下は18時ごろがピークとなっています。**

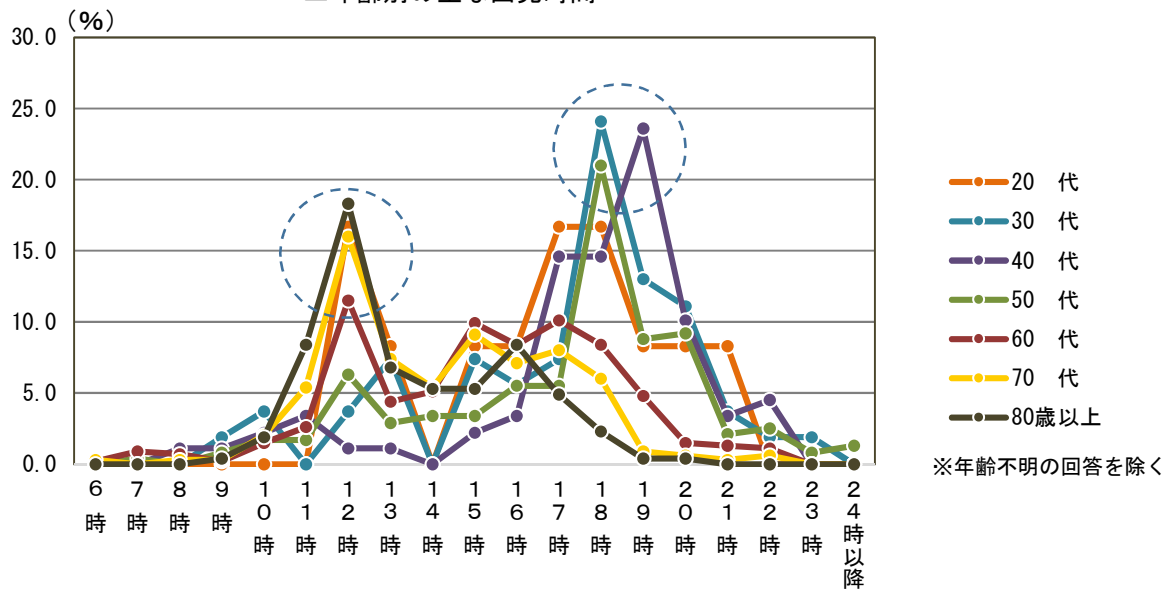


▲主な外出時間

5. 公共交通の利用実態・ニーズ把握調査



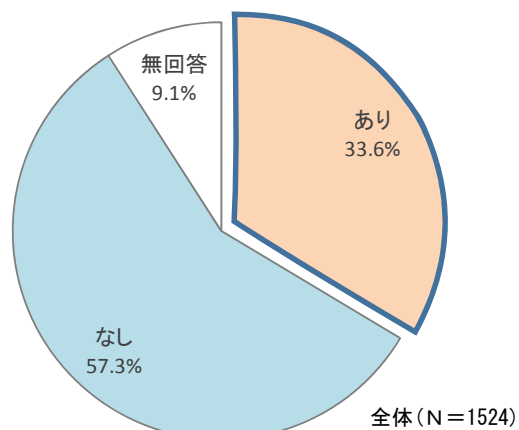
▲年齢別の主な出発時間



▲年齢別の主な帰宅時間

⑦友人等との交流状況

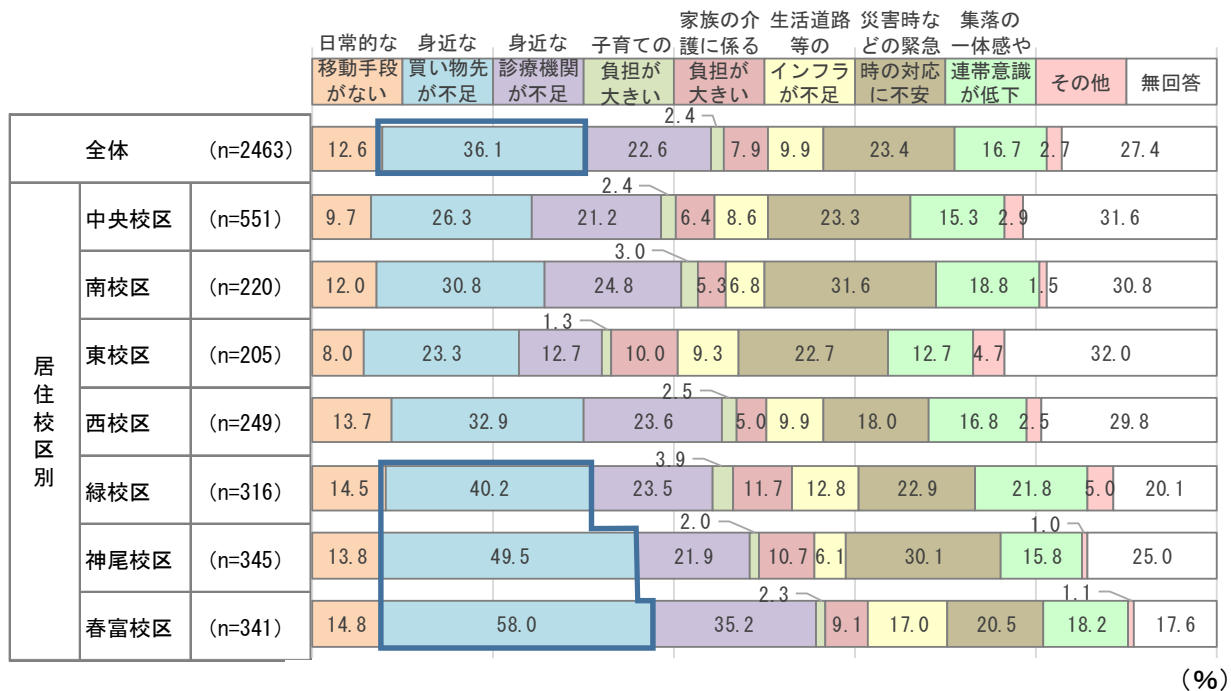
全体の約3割（33.6%）が週に1回以上、友人と交流する場を設けています。



▲友人等と交流する場の有無

⑧ 普段の生活において最も困っていること

全体では「身近な買物先が不足」と感じている方が36.1%おり、校区ごとにみると旧三加和町である緑校区、神尾校区、春富校区の回答は4割以上となっています。



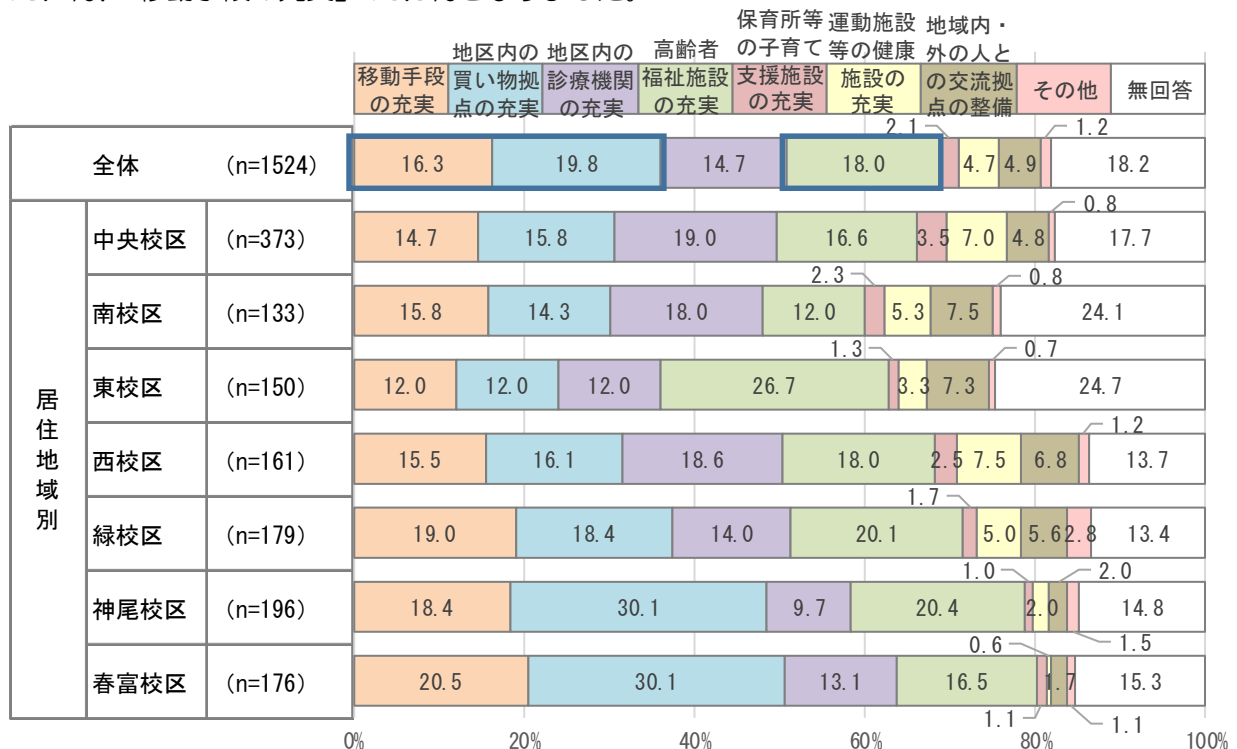
▲ 普段の生活において困っていること

※複数回答を含む

※居住校区別では、校区不明の回答を除く

⑨ 日常生活の中で重要だと思われる機能

全体で約2割(19.8%)が「地区内の買物拠点の充実」と回答しており、「高齢者福祉施設の充実」18.0%、「移動手段の充実」16.3%となりました。

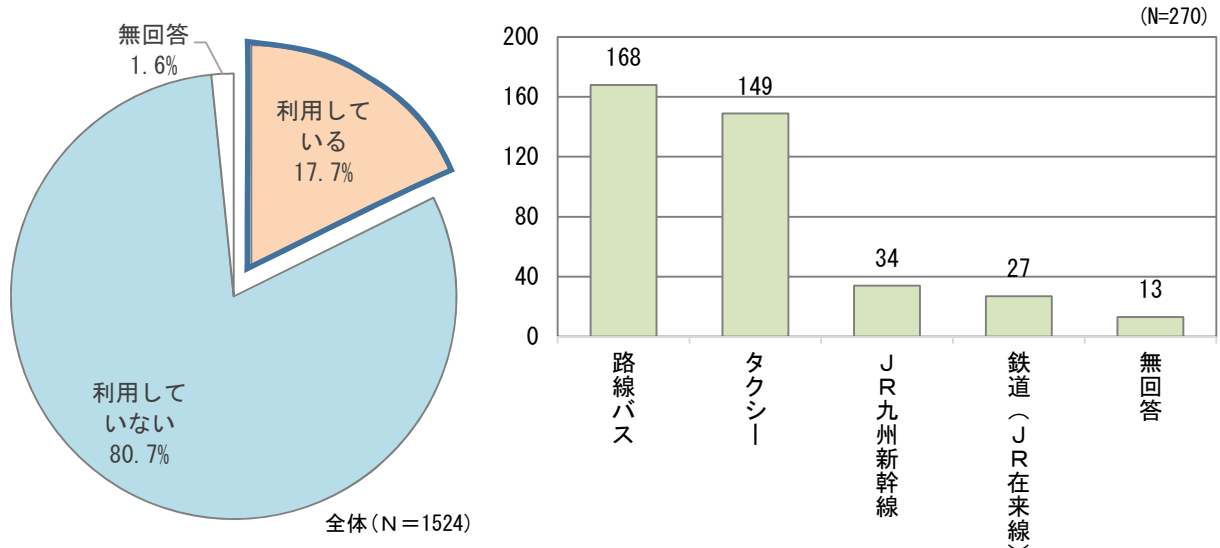


▲ 日常生活で重要だと思われる機能

※居住校区別では、校区不明の回答を除く

⑩公共交通の利用状況

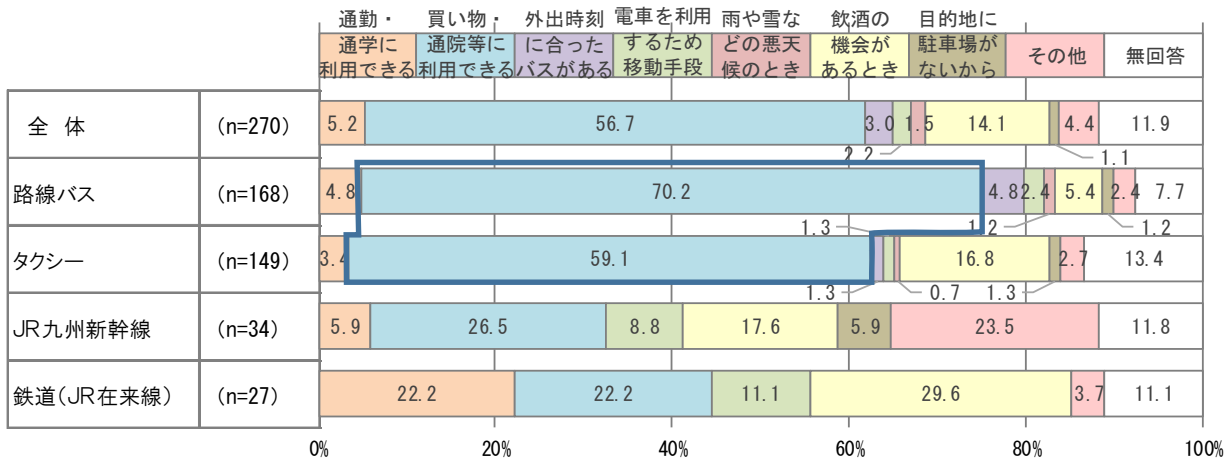
公共交通の利用状況については、**全体の約2割（17.7%）が公共交通を利用している**と回答しています。利用している公共交通の内容については、「路線バス」が最も多く、次いで、「タクシー」となっています。**路線バスの利用理由としては約7割（70.2%）が「買物・通院等に利用できる」と回答があり、タクシーに関しても約6割（59.1%）が同理由として上がっています。**



▲公共交通の利用有無

▲公共交通ごとの利用者数

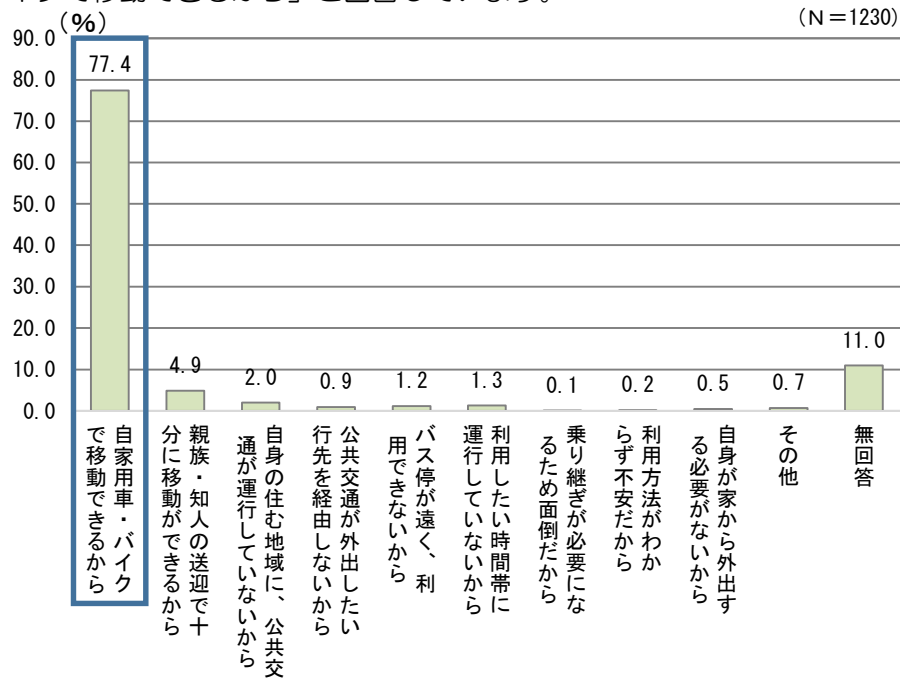
※複数回答を含む



▲公共交通ごとの利用する理由

⑪ 公共交通を利用しない理由

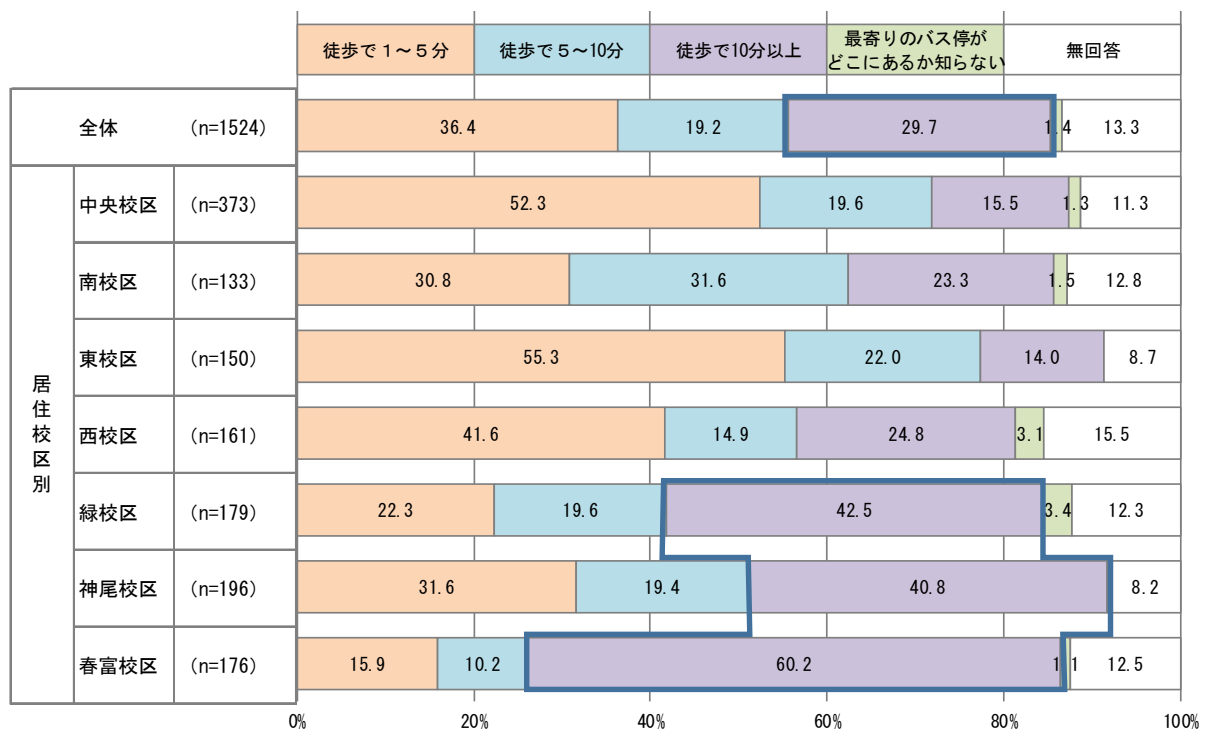
公共交通を利用しない方を対象として、利用しない理由を尋ねたところ、約 8 割（77.4%）が「自家用車・バイクで移動できるから」と回答しています。



▲ 公共交通を利用しない理由

⑫ 最寄りのバス停までの時間

全体の 3 割（29.7%）が徒歩で 10 分以上バス停まで歩く必要があると答えています。また、中央校区、南校区、東校区、西校区の旧菊水町側は「徒歩 10 分以上かかる」と答えた方が、最大でも中央校区の 15.5%であるのに対し、**緑校区、神尾校区、春富校区の旧三加和町側は、最低でも 4 割の方が「10 分以上かかる」と答えています。春富校区に関しては約 6 割の方が 10 分以上かかる**と回答しています。

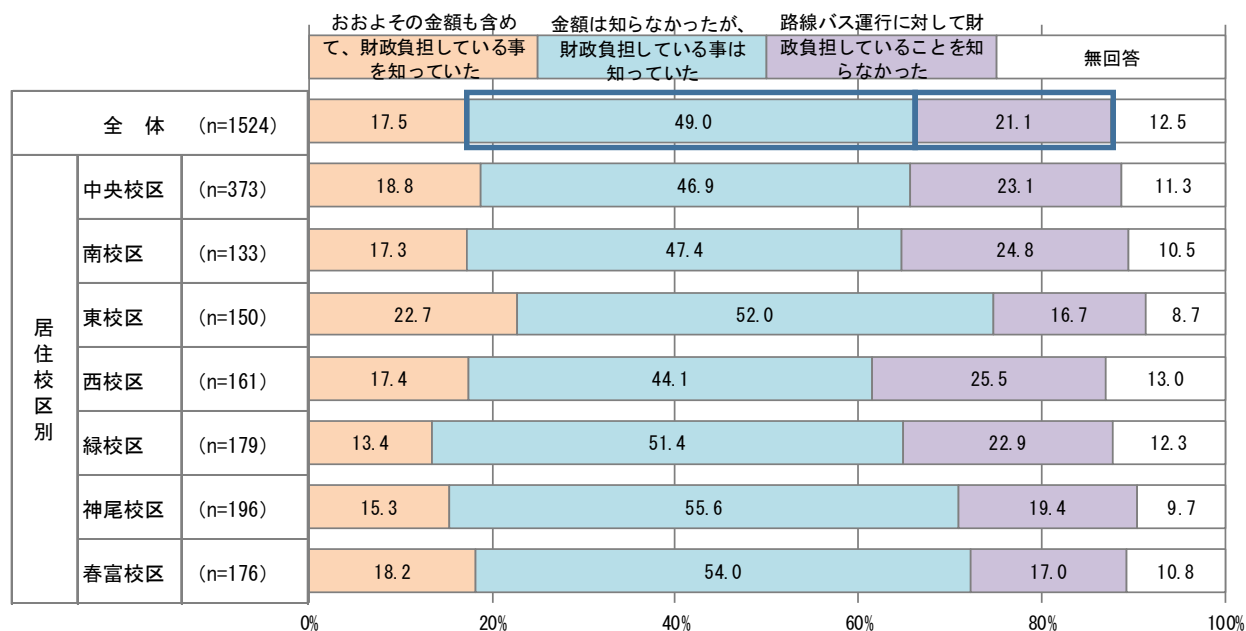


▲ 最寄りのバス停までの時間

※居住校区別では、校区不明の回答を除く

⑬現在の路線バスへの財政負担についての認知状況

全体の約半数（49.0％）が「金額は知らなかったが、財政負担している事は知っていた」に回答しています。また、「財政負担をしていることを知らなかった」と回答した方が2割以上（21.1％）います。



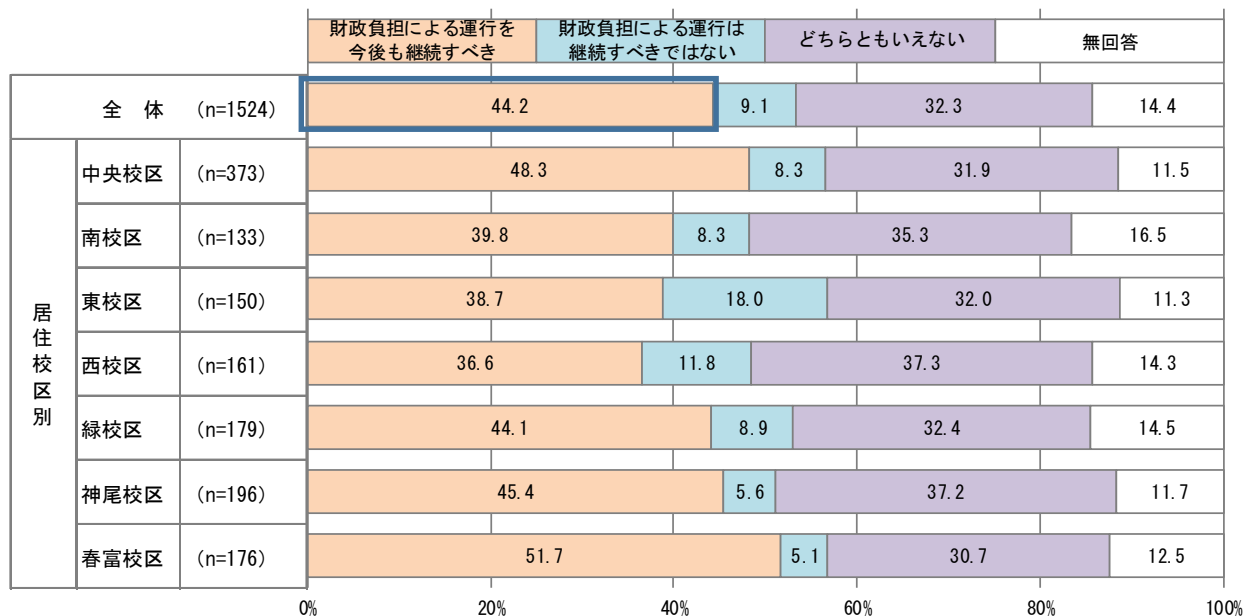
▲財政負担についての認知状況

※居住校区別では、校区不明の回答を除く

⑭利用者が少ない路線の今後の維持についての考え

4割以上の方が「財政負担による運行を今後も継続すべき」と回答しており、その中でも過半数の方が「おおよその金額も含めて、財政負担している事を知っていた」や「金額は知らなかったが、財政負担している事は知っていた」に回答しています。

また、4割以上の方が「財政負担を継続すべきだが、負担額の軽減にむけた工夫が必要」と回答しています。工夫の方法としては約4割（36.9％）の方が「サービスの効率化や縮小する工夫をして運行を継続すべき」と回答しています。



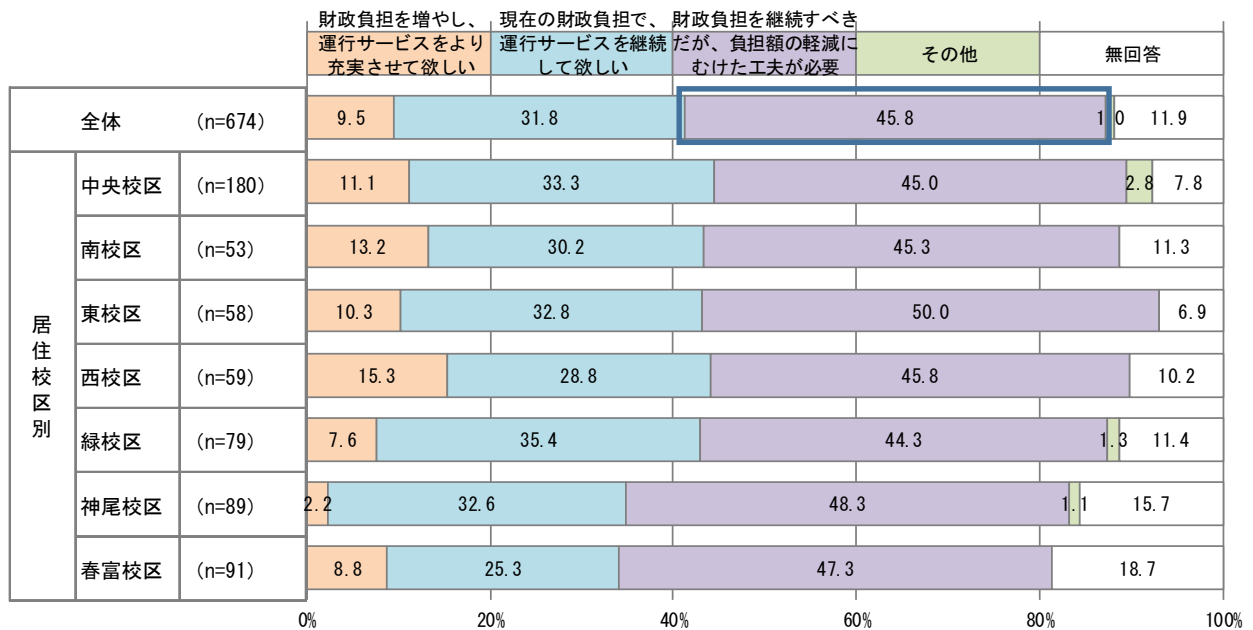
▲利用者が少ない路線の今後について

※居住校区別では、校区不明の回答を除く

5. 公共交通の利用実態・ニーズ把握調査

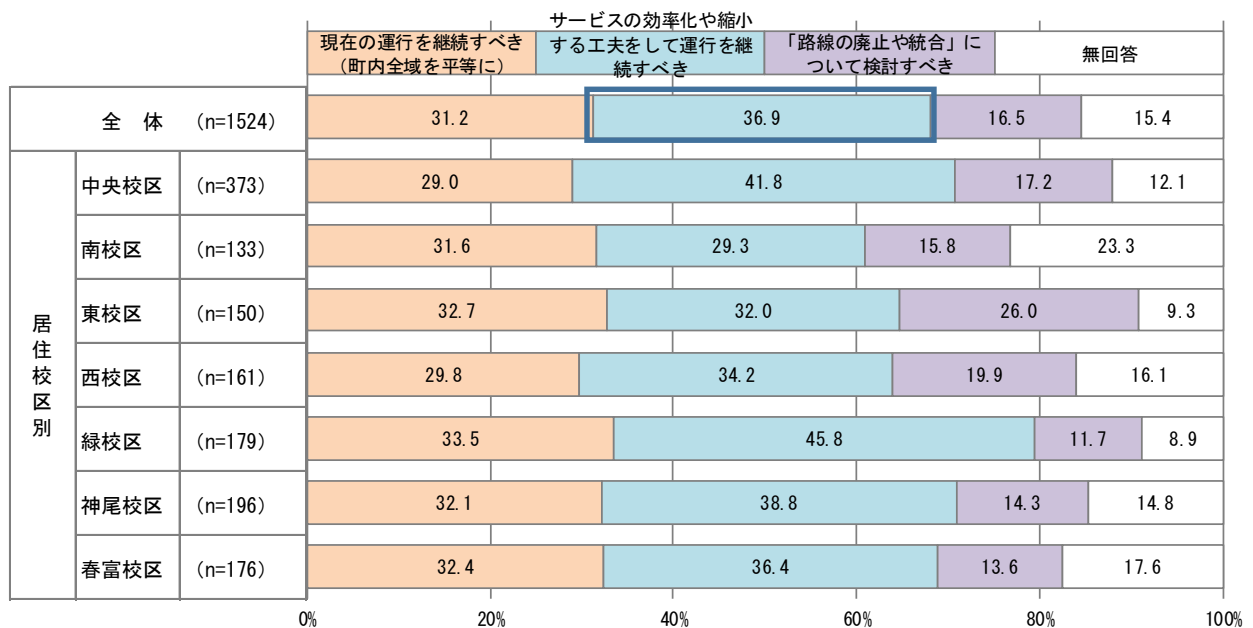
▼財政負担の認知状況と今後の維持についての意見

		サンプル数	財政負担による 運行を今後も継 続すべき	財政負担による 運行は継続すべ きではない	どちらともいえ ない	無回答
全 体	上段単位: %	100. 0	44. 2	9. 1	32. 3	14. 4
	下段単位: 票	1524	674	138	493	219
おおよその金額も含めて、財政負 担している事を知っていた		100. 0 266	56. 4 150	12. 4 33	27. 4 73	3. 8 10
金額は知らなかったが、財政負担 している事は知っていた		100. 0 747	53. 5 400	10. 6 79	34. 0 254	1. 9 14
路線バス運行に対して財政負担し ていることを知らなかった		100. 0 321	37. 4 120	7. 2 23	51. 1 164	4. 4 14



▲財政負担とサービス水準について

※居住校区別では、校区不明の回答を除く



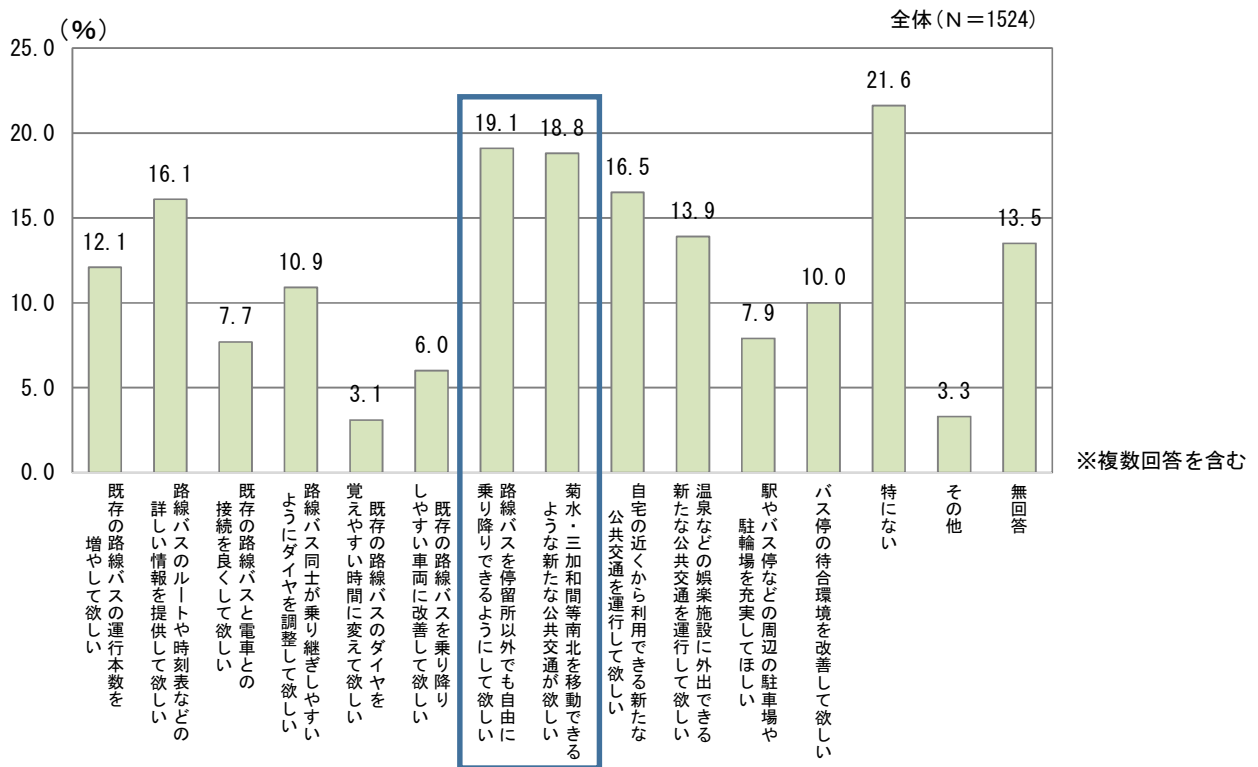
▲利用者が少ない路線の今後の維持について

※居住校区別では、校区不明の回答を除く

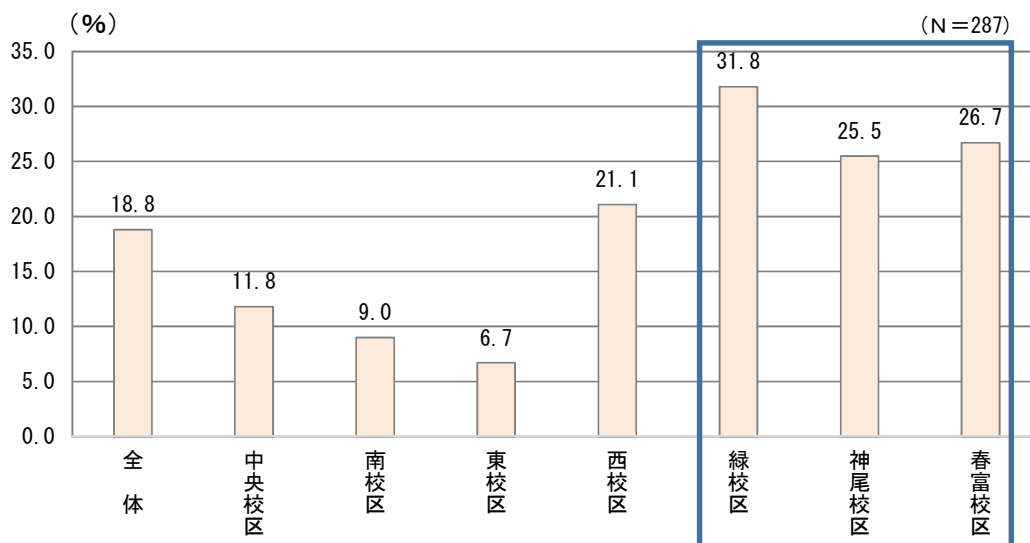
⑮公共交通に望むサービス

全体で公共交通に望むサービスは「特にない」と回答した割合は2割以上ありますが、約2割（19.1%）が「路線バスを停留所以外でも自由に乗り降りできるようにして欲しい」と回答、次いで、「菊水・三加和間等南北を移動できるような新たな公共交通が欲しい」が18.8%、「自宅の近くから利用できる新たな公共交通を運行して欲しい」が16.5%、「路線バスのルートや時刻表などの詳しい情報を提供して欲しい」が16.1%となっています。

「菊水・三加和間等南北を移動できるような新たな公共交通が欲しい」との回答を行政区ごとにみると、旧三加和町の緑校区は3割以上（31.8%）、神尾校区、春富校区は25.0%以上の方が回答しています。



▲公共交通に望むサービス



▲行政区ごとの「菊水・三加和間等南北を移動できるような新たな公共交通が欲しい」と回答した方の割合

(2) グループインタビュー調査

1) 調査概要

①調査目的

和水町内において、公共交通がないと困る町民を把握し、公共交通利用の可能性について検証することを目的として、各行政区の区長や民生委員を通じた交通弱者の把握調査を実施しました。

②調査期間

平成 27 年 9 月 10 日（木）～24 日（木）

③調査方法

グループインタビュー方式での聞き取り調査

各地区の交通弱者と思われる町民の居住地を地図上へ記入

④本調査における“交通弱者”の考え方

○普段の移動に困っている方

例：自動車等の運転免許書をお持ちではない方

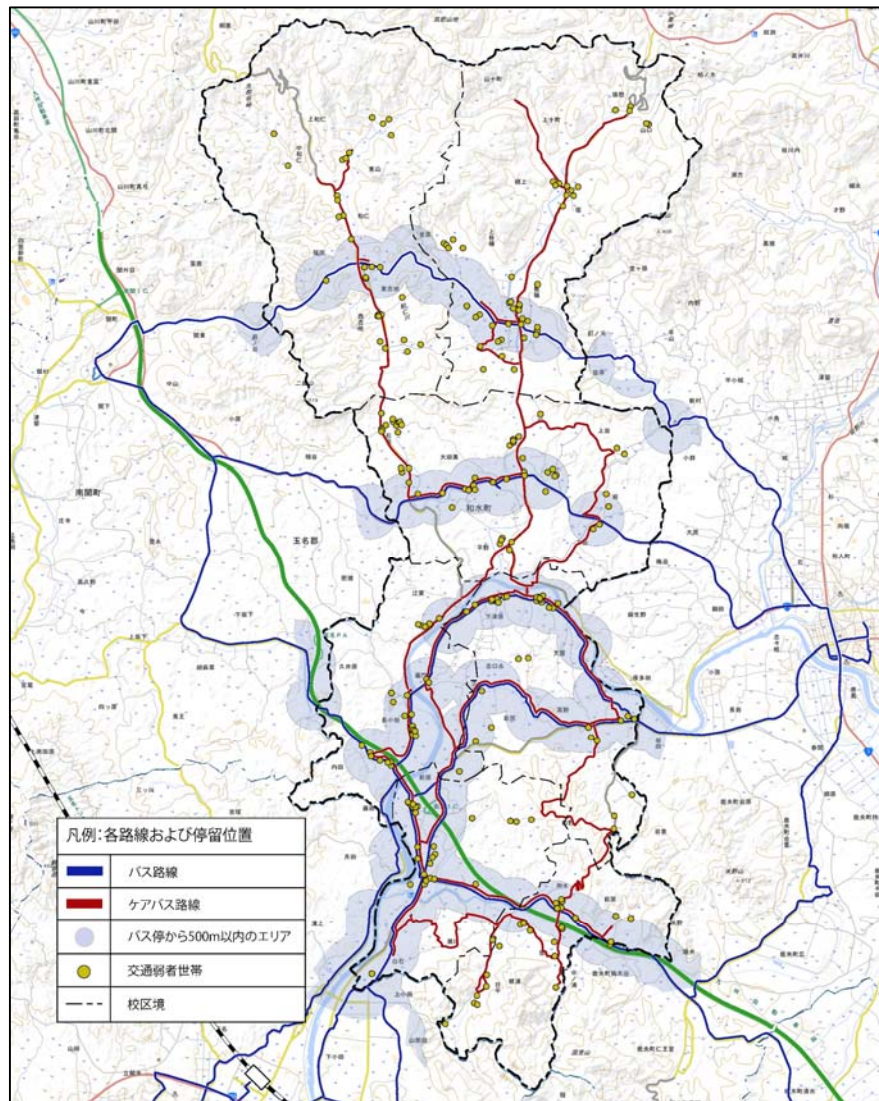
：親族や、区長・民生委員（隣人含む）に送迎を頼む方



▲グループインタビューの実施状況

2) 調査結果

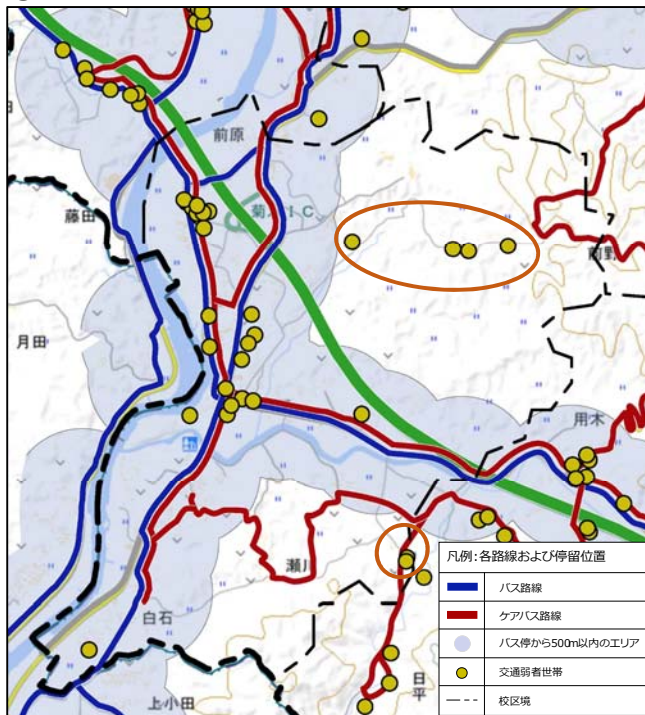
グループインタビューの結果より、和水町内全域で 282 人の交通弱者を把握しました。また、バス停からの 500m 圏域外に住んでいる方は 117 人います。



▲和水町全域における交通弱者の居住状況

I 中央校区

①交通弱者の居住状況



▲中央校区における交通弱者の居住状況

中央校区では計 33 人の交通弱者が把握されました。全 33 人中 **7 名は路線バス沿線から外れた位置**に住んでいます。

(複数名の交通弱者が同世帯に居住の場合あり)

②外出する際や、地域の問題点、または意見

外出する際の具体的な問題点や意見

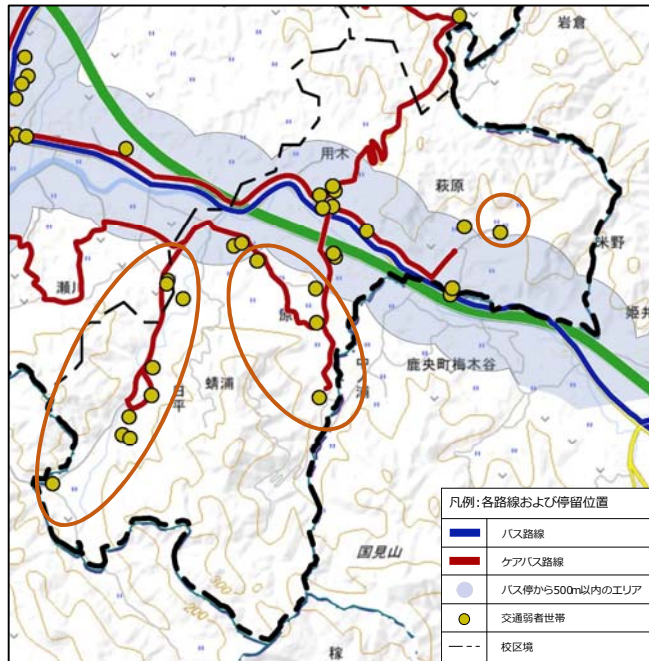
- ・ケアバスの時間が合わない。[白石]
- ・玉名方面へ向かう産交バスは新幹線駅経由のため、時間がかかりすぎる。[白石]
- ・山鹿方面の病院へダイレクトに向かうバスがあると便利。[白石]
- ・鶯原からバス停まで歩いていくのは困難。[白石]
- ・自転車に乗れなくなったのでタクシーを利用している方がいる。[中原]
- ・息子が帰宅できないと移動に支障が出る方がいる。[中原]
- ・電動シニアカーの補助がほしい。[米渡尾]
- ・最寄りのバス停は「藤田」だが、玉名へ行く場合は、皆行原まで歩く。[藤田]
- ・山鹿方面への路線バスの便数が少なく不便を感じる。[中央団地]

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- ・老人のためのコミュニティの場を作る活動をしており、多くの人が参加できるような工夫を考えている。[馬場]
- ・地区内のコミュニティに町外からは入りづらいのではないかな。[白石]
- ・新居の増える地区と増えない地区がある。[白石]
- ・防災訓練（消火器や消火栓の取り扱い、AED、心臓マッサージ）、健康推進（ウォーキング、週 1 回の筋トレ等）、2 年に 1 回、区の旅行を行っている。[皆行原]
- ・健康体操（2 回/週）；筋トレ、自強術体操。学びのばば講座（8 回/年）；自主防災講座、健康講座、ひなかつり（祭り）、年末の餅つき、他。囲碁（1 回/週）を行っている。[馬場]
- ・道路幅員が狭い（4m ぐらい）。大型トラックは通らないようにお願いしている。[藤田]

Ⅱ 南校区

① 交通弱者の居住状況



▲南校区における交通弱者の居住状況

南校区では計33人の交通弱者が把握されました。全33人中 **15名は路線バス沿線から外れた位置**に住んでいます。

(複数名の交通弱者が同世帯に居住の場合あり)

② 外出する際や、地域の問題点、または意見

外出する際の具体的な問題点や意見

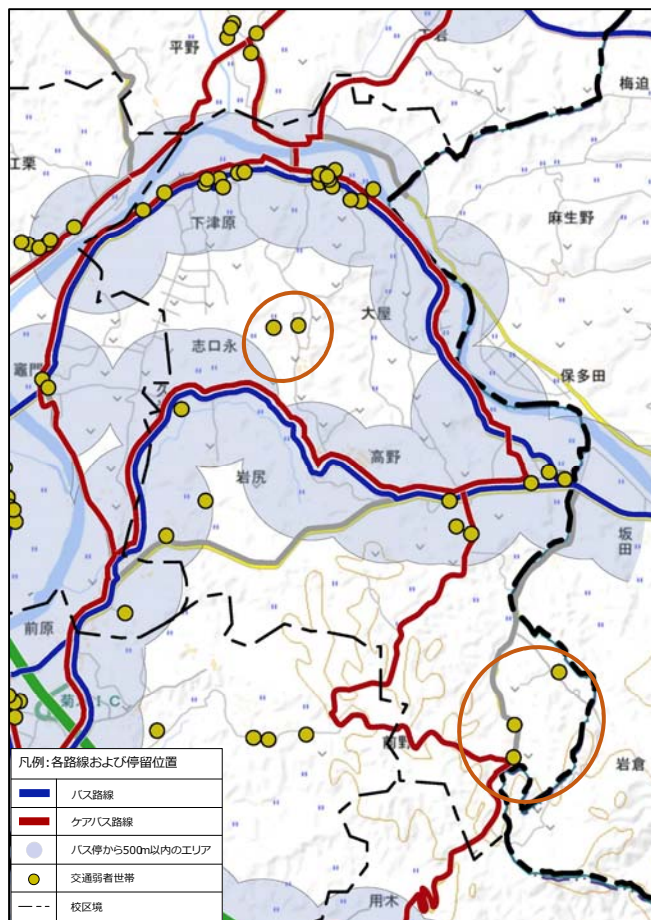
- ・自宅からバス停までの移動が困難な状況にある。[日平]
- ・移動に困っている方は子供が帰ってきた時のみと制限されている。[萩原]
- ・移動に困っている方は好きな時間帯や目的地に外出できない。[行政区不明]
- ・ケアバスのルート(遠回り)を無駄に感じている方もいる。[日平・用木]
- ・ケアバスは病院から買物施設へのルートがあれば利用が増えると思う。[日平・用木]
- ・玉名や大牟田等への公共交通による移動手段があればいい。[日平・用木]
- ・自家用車を持たない方を思うと、銀行と病院への交通手段を必要に感じる。[日平・用木]
- ・路線バスがなくなったら、コミュニティバスを運行、もしくはタクシー補助が必要になるのではないか。[日平・用木]
- ・コミュニティバス運行に際して、原則、路線に面した利用者は自宅前から乗れるようにしてほしい。またコミュニティバスは、極力、利用者の外出理由に沿う運行形態を取ってもらえるように配慮してもらいたい。[行政区不明]

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- ・農業の後継者が減っている。空き家が増加している。[日平]
- ・空き家の対策をしてほしい。台風のために、道路で倒木があり、処理に困っている。[萩原]
- ・空き家対策を町として、もう少し推進してほしい。所有者が町外だと苦勞する。[行政区不明]
- ・ゴミステーションが遠く、ゴミ出しに持って行くことができない。[行政区不明]
- ・県道3号は、歩道がないのでゴミ出しが危ない。[行政区不明]
- ・買物は、移動販売車があるが、出かける楽しみがない。菊水「なかよし会」と三加和「ふれあい会」は、社協の送迎がほしい。[行政区不明]
- ・食事宅配サービスの利用者が2人いたが、トラブルで辞めた。[行政区不明]
- ・行事を嫌う若者が多いため、外に出ていく。[日平・用木]
- ・用木は困っていないという意見もある。[日平・用木]
- ・ゴミの集積を増やせないか。高齢者がゴミ出しに苦勞している。[行政区不明]

Ⅲ 東校区

① 交通弱者の居住状況



▲ 東校区における交通弱者の居住状況

東校区では計 35 人の交通弱者が把握されました。全 35 人中 **6 名は路線バス沿線から外れた位置**に住んでいます。

(複数名の交通弱者が同世帯に居住の場合あり)

② 外出する際や、地域の問題点、または意見

外出する際の具体的な問題点や意見

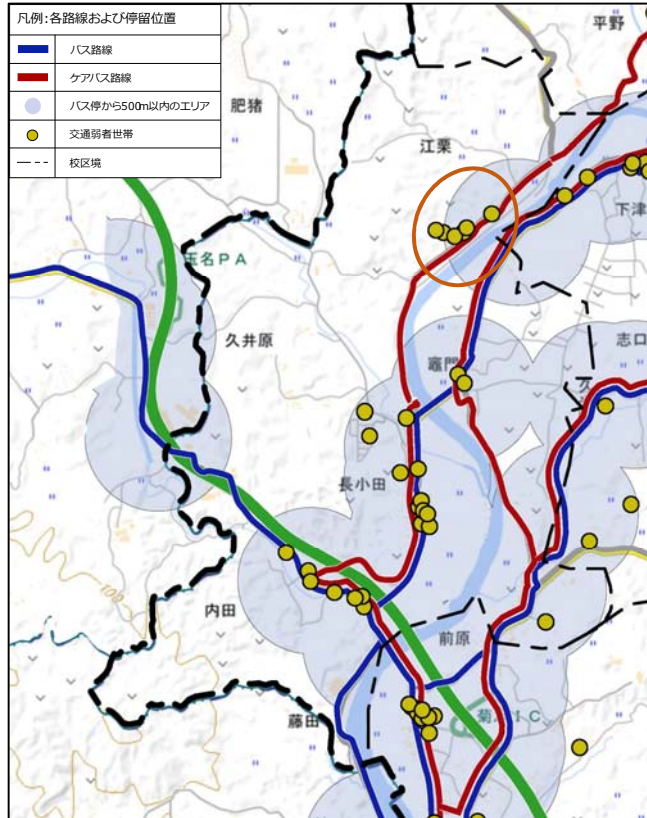
- ・夫婦で車を持っていない世帯もあり、近くに住んでいる娘に頼ることがある。その世帯は主にタクシー移動を行っている。[志口永]
- ・ケアバスの利用者が 1 名と少ない。住民は町外の病院利用が多いため、バスがないと不便（地域柄山賀方面が多い）。[焼米]
- ・ケアバス以外にタクシー無料券の配布をしてほしい。[久米野]
- ・移動に困っている方の一人は息子が帰ってきたときや、近くの地域（焼米）の娘、近所の人に頼っている。[榎原]
- ・子供・孫・親戚等が来たとき、近所の人や友達に頼っている方がいる。
- ・ロマン館へのバスと病院の巡回バスの調整をしてほしい。[榎原]
- ・現在、車の運転をしている高齢者が多く（90 歳前後）心配しているが、病院行きや買物で不自由するので、なかなか免許証を返せとは言えない。[志口永]
- ・高校生がいるので通学に適した時間の公共交通がほしい。[行政区不明]
- ・コミュニティバス、乗合タクシーを利用したい。大型バスは必要ない。[行政区不明]

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- ・農道の舗装をしたいが、業者に依頼すると高額になるが、高齢化のため、なかなかできない。
- ・神社、観音様等のおまもり、管理等、高齢化により 1 人では難しくなっている。[焼米]

IV西校区

①交通弱者の居住状況



▲西校区における交通弱者の居住状況

西校区では計29人の交通弱者が把握されました。7名は近くのバス停まで向かうのに渡河するか、河川沿いを運行するバスに乗る必要がありますが、居住地の近くには橋梁がない状況にあります。

(複数名の交通弱者が同世帯に居住の場合あり)

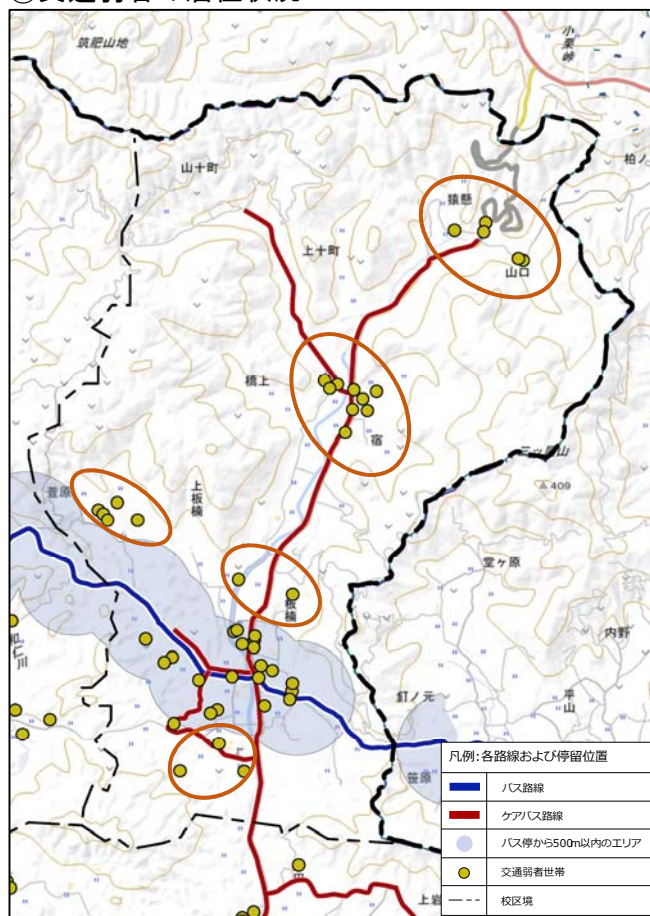
②外出する際や、地域の問題点、または意見

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- 地区の運動会、行事を減らせとの声も。和水是仕事が少ないため、若者が出ていくのではないか。
未利用の土地はあるが、持主が手放さない。[行政区不明]

V 緑校区

① 交通弱者の居住状況



▲ 緑校区における交通弱者の居住状況

緑校区では計 50 人の交通弱者が把握されました。全 50 人中 **26 名は路線バス沿線から外れた位置**に住んでいます。
(複数名の交通弱者が同世帯に居住の場合あり)

② 外出する際や、地域の問題点、または意見

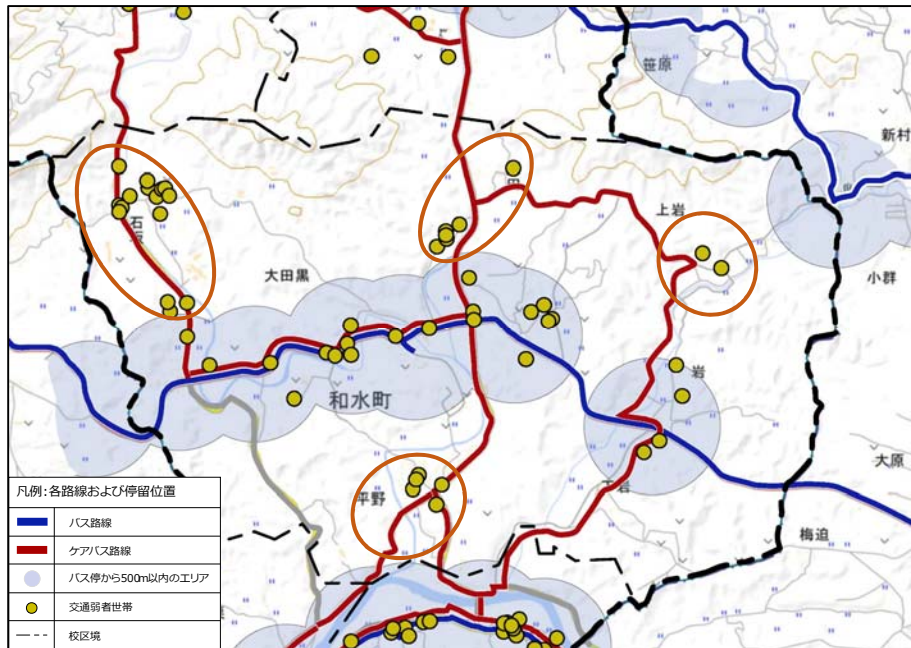
外出する際の具体的な問題点や意見

- ・バス停（西口）が遠い（800m）。年寄で 20～30 分かかる。スーパー菊屋まで 1.5 km。タクシーで買物に行く。病院通いは、山鹿が多く、タクシー利用（病院の送迎も一部ある）。法事などあっても、移動できない（タクシーか、親戚に依頼する）。 [西口]
- ・免許がなく、山鹿まで歩いている方がいる。病院等へはタクシーを使っている。 [中十町]
- ・交通弱者のなかには、自身でまだ運転しているが不安定で、周りから見ると危なく思う（足も不自由）、娘が働きに出ているときは、自分で動けない。家族に車の運転ができる者はいるが酸素吸入しながらで遠くへは行けず、同居人は 1 人では動けない。娘が来たとき、または頼んで送迎してもらっているといった方々がいる。 [中十町]

VI 神尾校区

① 交通弱者の居住状況

神尾校区では計64人の交通弱者が把握されました。全64人中35名は路線バス沿線から外れた位置に住んでいます。（複数名の交通弱者が同世帯に居住の場合あり）



▲ 神尾校区における交通弱者の居住状況

② 外出する際や、地域の問題点、または意見

外出する際の具体的な問題点や意見

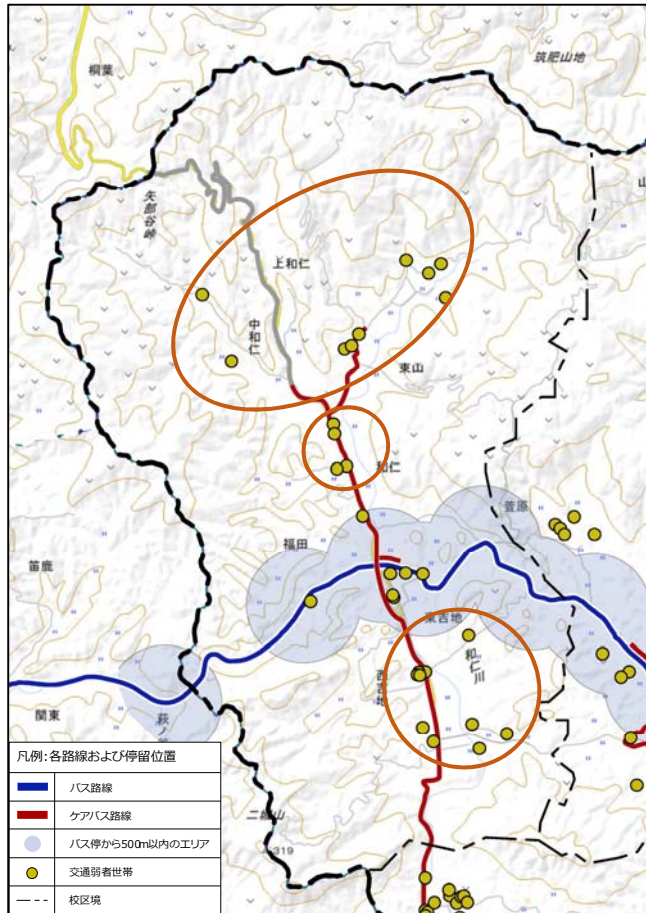
- ・ 買物が一番困っている。[上岩]
- ・ 路線バスの本数が減り利用するのに困っている。近所の人に頼むのも気をつかう。[上岩]
- ・ 近所の人に買物に連れていってもらっているが、近所の方から民生委員に相談された（連れて行くのはいいが、気をつかうとのこと）。[上岩]
- ・ 他人に頼むにも気をつかう。常に困る。[上岩]
- ・ 大田黒から板楠方面への交通手段がタクシーしかない。[上大田黒]
- ・ 制限付のタクシー補助を導入すれば、あとは利用者次第ではないか。[下津田]
- ・ 町内及び、山鹿や南関等に買物に行ける、小さなバスが巡回してくれれば助かる。[上津田]
- ・ ケアバスで買物施設等の目的地へも運行をしてほしい。[行政区不明]
- ・ 小回りのきく乗合タクシーを導入してはどうか（バス乗場まで行けない人もいる）。[上津田]

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- ・ 三加和の役場（和水町全部）は、土日が利用できないので困る。[上大田黒]
- ・ 各地域に店があればいい。予約制の移動販売があるといい。[行政区不明]

VII 春富校区

① 交通弱者の居住状況



▲ 春富校区における交通弱者の居住状況

春富校区では計38名の交通弱者が把握されました。全38人中27名は路線バス沿線から外れた位置に住んでいます。
(複数名の交通弱者が同世帯に居住の場合あり)

② 外出する際や、地域の問題点、または意見

外出する際の具体的な問題点や意見

- ・ 目的地点まで歩かなければならない。頼む相手に迷惑をかけるため平日は頼めない。[中林]
- ・ 移動制限者には、何らかの地区内の手助けが必要。時間的に余裕を持って生活されている方、制限者を手助けしてもよいと思っている方など、役場が把握し、慈善活動で送迎をする。[中林]
- ・ 外出は車だが、年齢的に運転が難しくなってきた方、健常者だが移動は人頼みの方、病気の後遺症で車の運転は控えめの方等に向けた、バス停までの移動手段を考える必要がある。[和仁]
- ・ 外出は娘が帰ってきたときのみや、娘・親類・近所等に頼んでいる方がいる。[中吉地]
- ・ バスカタクシーしかないので、外出に困っている方がいる。[上吉地]
- ・ ケアバスがあるので、山鹿の病院から町立病院に変えた方もいる。[行政区不明]

地区に必要なと思う活動や、その他のご意見

- ・ 店がないため、買物に困る。[上吉地]
- ・ 商店、病院がない。[下吉地]
- ・ 郵便局、ストアがある福田を中心に、商品の多い店舗等、新たな施設の設置を考える。[和仁]
- ・ 若者の増加や残るような工夫が必要。[行政区不明]
- ・ 空き家は多くあるが、荷物があるため、所有者が手放さない。荷物は年寄のものばかりで誰も必要としていない。[行政区不明]

(3) 個別訪問調査

1) 調査概要

①調査目的

交通弱者の公共交通に対する具体的なニーズを把握するため、個別訪問による聞き取り調査を実施しました。

②調査対象

グループインタビュー調査から把握した交通弱者

③調査期間

平成27年10月12日(月)～平成27年10月14日(水)

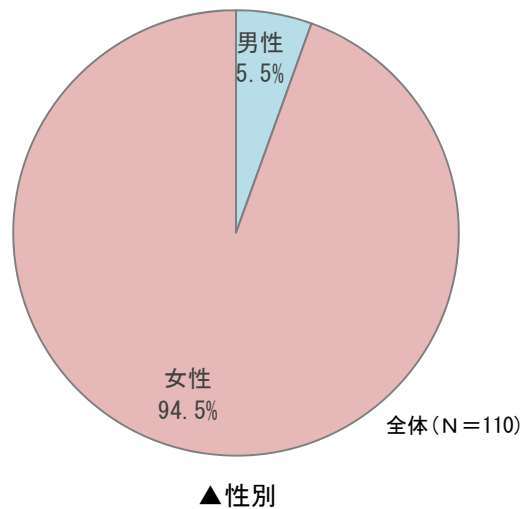
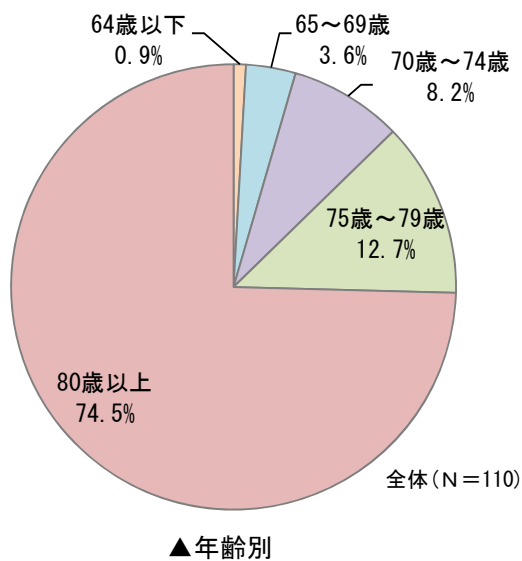
④調査方法

直接面談方式による聞き取り調査

2) 調査結果

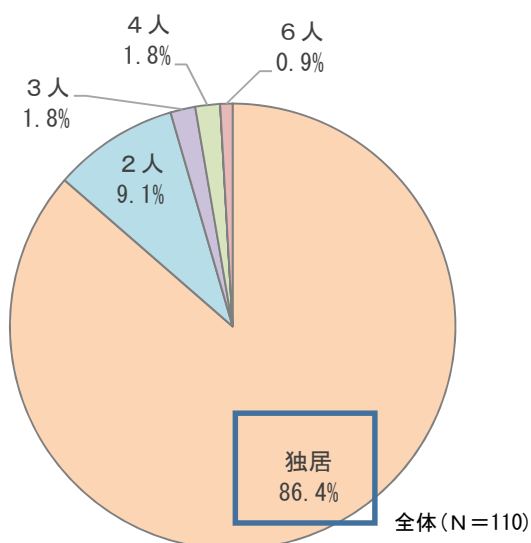
①回答者の属性

回答者の属性として、年齢別、性別について下記に掲載します。年齢別においては「80歳以上」が7割以上(74.5%)の回答結果となりました。性別においては女性の回答者が9割以上(94.5%)となっています。

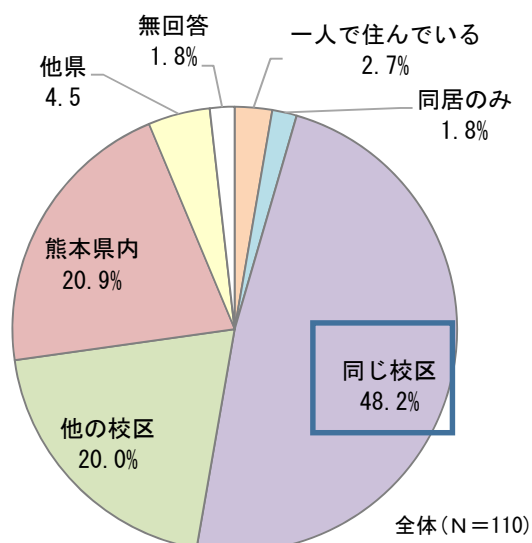


②居住状況

居住状況については **8 割以上（86.4%）** が「**独居**」の状態です。近くに住んでいる親族の居住状況に関しては、「**同じ校区**」に住んでいるとの回答が約 **5 割（48.2%）** となっています。



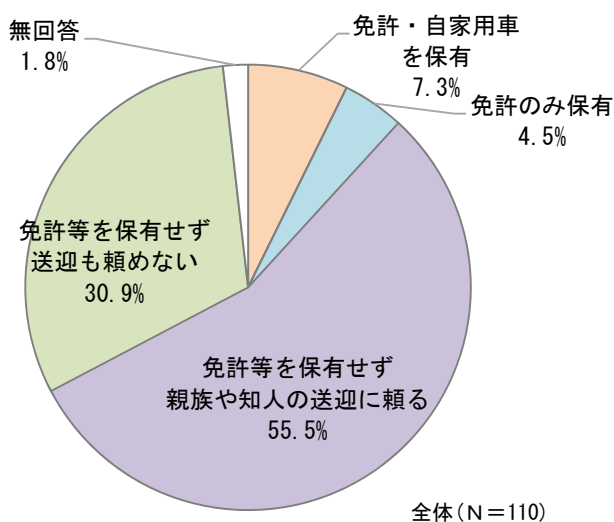
▲同居人数 (本人を含む)



▲近くに住んでいる親族の居住状況

③運転免許等の保有状況と送迎の有無

全体の半数以上（**55.5%**）が「**免許等を保有せず親族や知人の送迎に頼る**」と回答しました。また、約 **3 割（30.9%）** が「**免許等を保有せず送迎も頼めない**」と回答しています。



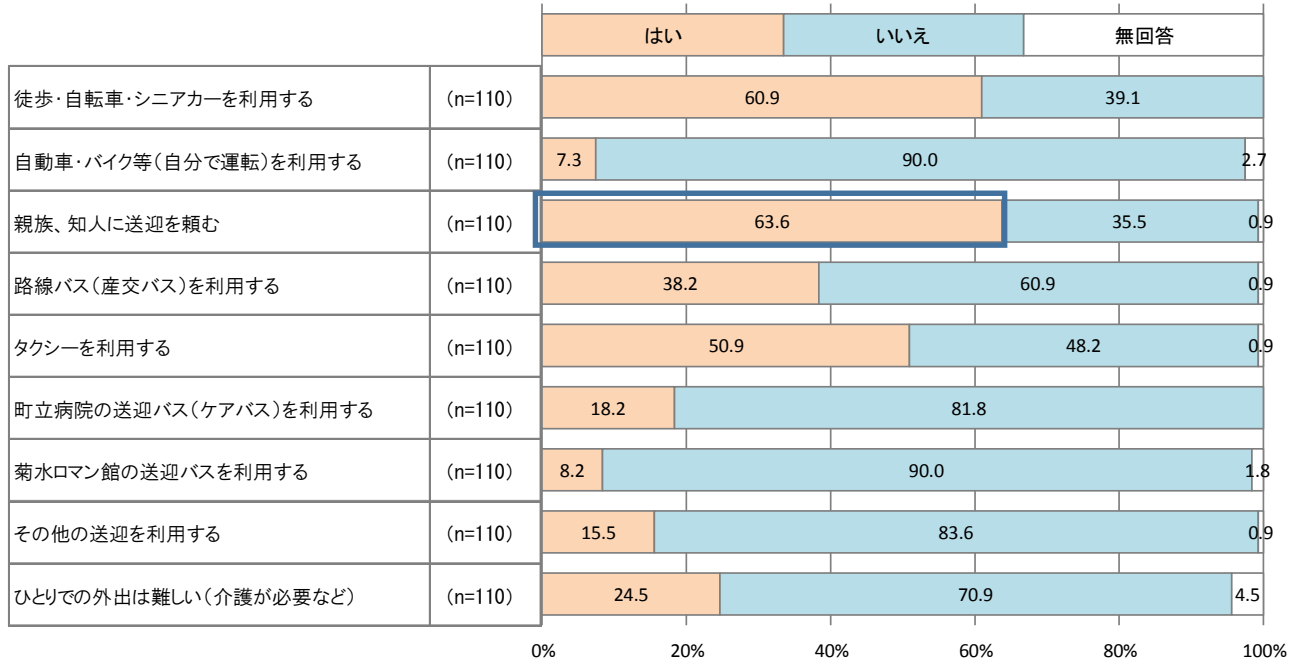
▲運転免許の保有状況と送迎の有無

運転免許を保有している 13 人の方は、返納に関して以下のように考えています。

今後3年以内に返納する考えがある・・・2人/13人
 時期は未定だが返納する考えがある・・・3人/13人
 返納の意思はあるが、交通手段がないため返納できない・・・1人/13人
 少なくとも5年は返納する気がない・・・2人/13人
 特に考えたことがない・・・3人/13人
 無回答・・・2人/13人

④ 普段の外出手段

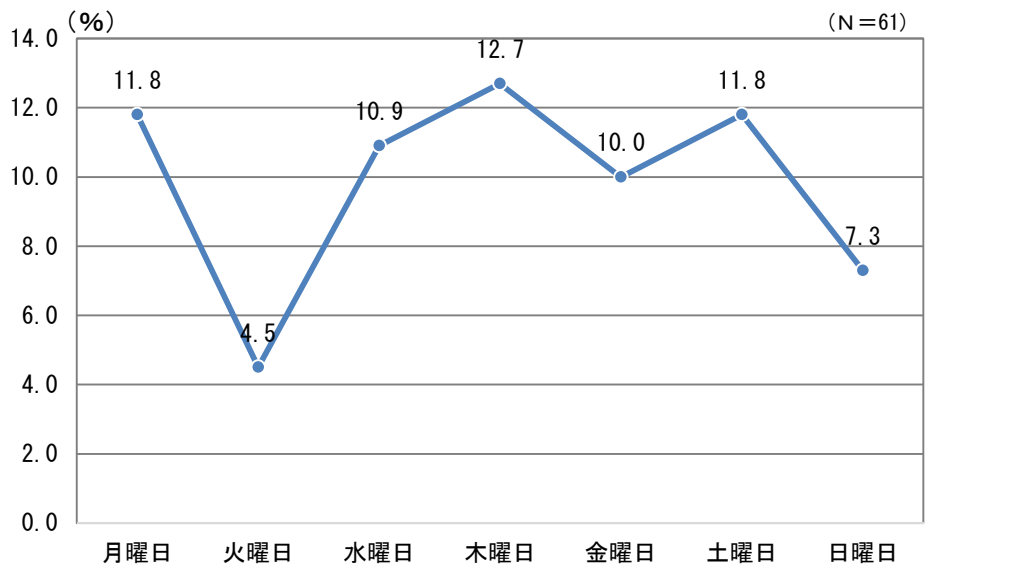
外出の際、全体で最も利用されている移動手段としては63.6%の方が「家族、知人に送迎を頼む」と回答しました。次いで、60.9%で「徒歩・自転車・シニアカーを利用する」、50.9%で「タクシーを利用する」という結果になりました。



▲ 普段の外出手段

⑤ 買物を行う際によく外出する曜日

買物を行う際の曜日としては木曜日(12.7%)が最も高いものの、ほとんど横ばいの状態です。しかし、火曜日は他の曜日に比べ買物にでる曜日としては低い(4.5%)現状にあります。

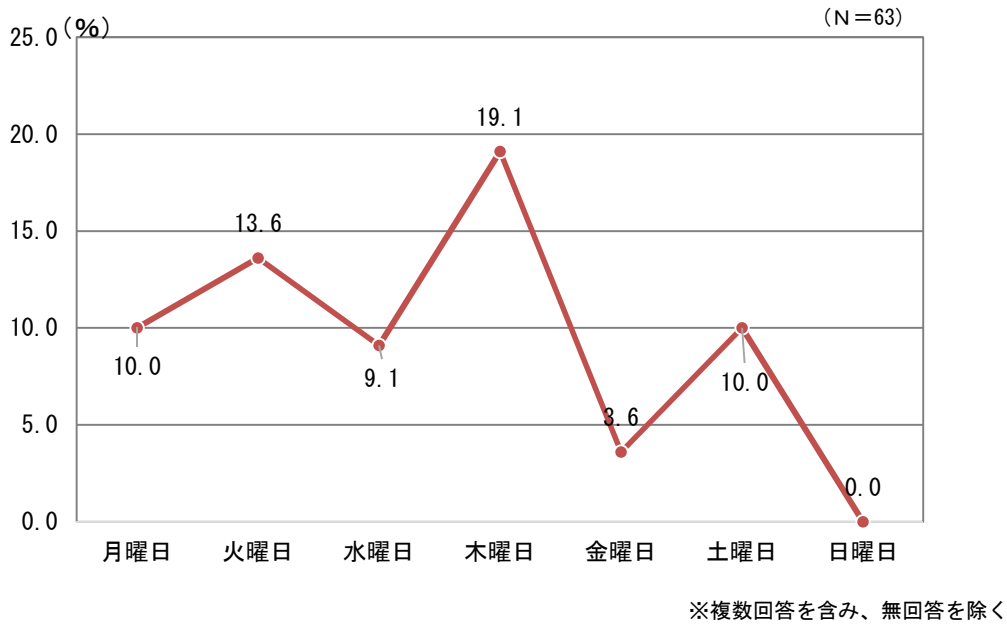


※複数回答を含み、無回答を除く

▲ 買物を行う際の曜日

⑥通院を行う際によく外出する曜日

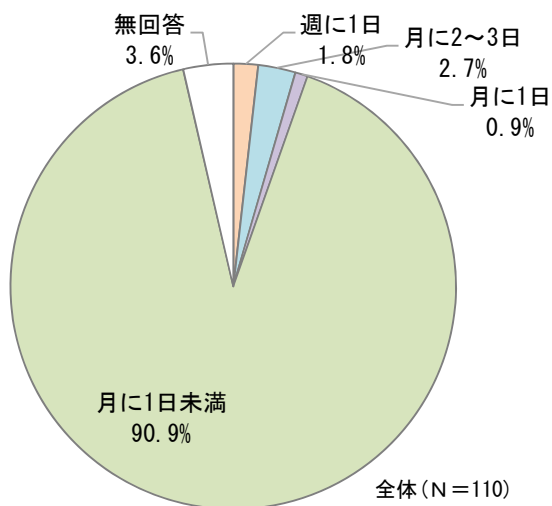
通院を行う際の曜日として約 2 割（19.1%）が木曜日と回答しています。また、休診日である日曜を除いて、金曜日の通院割合が 3.6%と低い現状にあります。



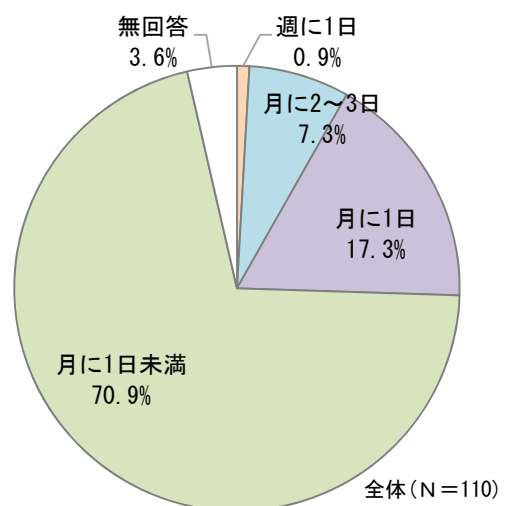
▲通院を行う際の曜日

⑦役場や金融機関への訪問頻度

役場や金融機関に訪れる回数としては、役場で 90.9%、金融機関で 70.9%が、「月に 1 日未満」と回答しています。



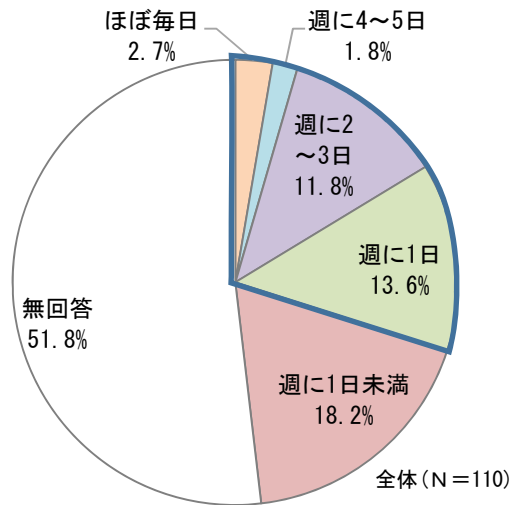
▲役場への訪問頻度



▲金融機関への訪問頻度

⑧趣味による外出状況

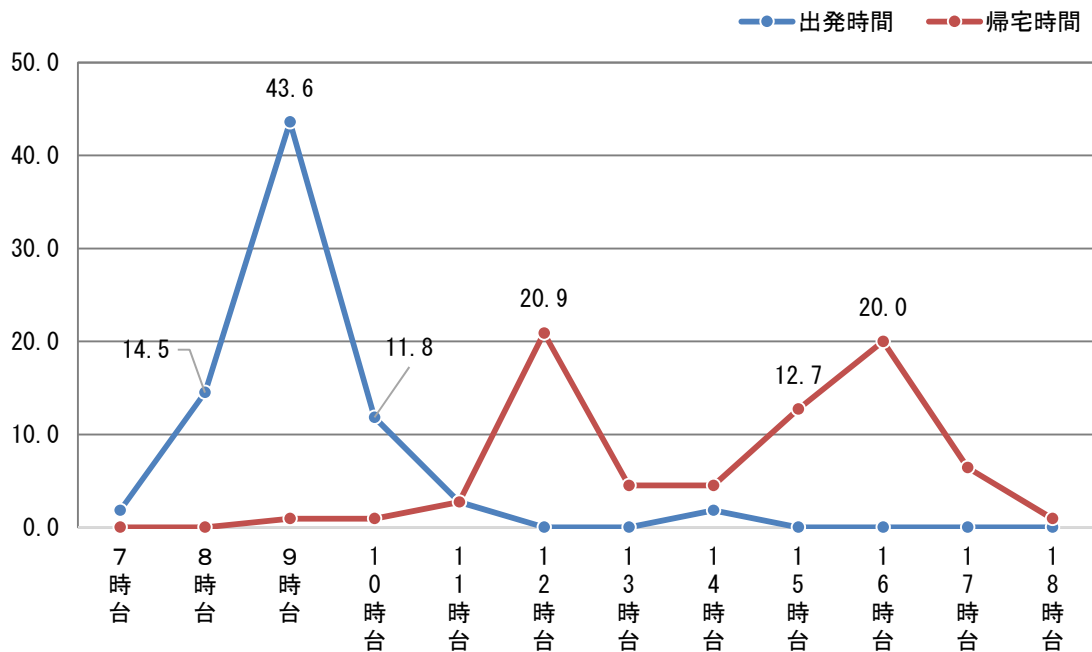
趣味による外出状況として、約 30%の方が週に 1 日以上外出するという現状です。



▲趣味による外出状況

⑨理想の外出時間帯

理想の外出時間として、9 時に出発を望んでいる方が全体の 4 割以上 (43.6%)、また、帰宅時間としては 12 時 (20.9%)、が最も高く、次いで 16 時 (20.0%) を望んでいるという回答結果になりました。

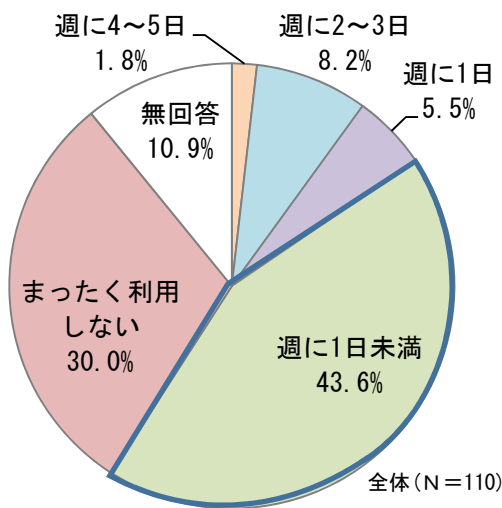


▲理想の外出時間

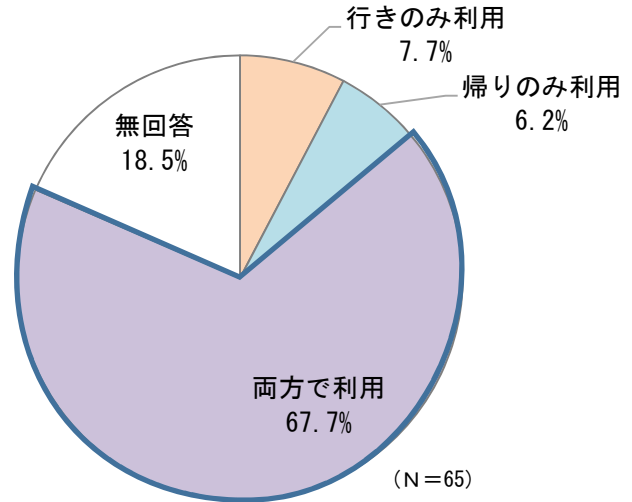
⑩公共交通の利用頻度

公共交通の利用頻度では、約 4 割（43.6%）が「週に 1 日未満」と回答しており、15.5%が週に 1 日以上利用すると回答しています。

また利用の際には約 7 割（67.7%）が公共交通を行きも帰りも利用する「両方で利用」と回答しています。



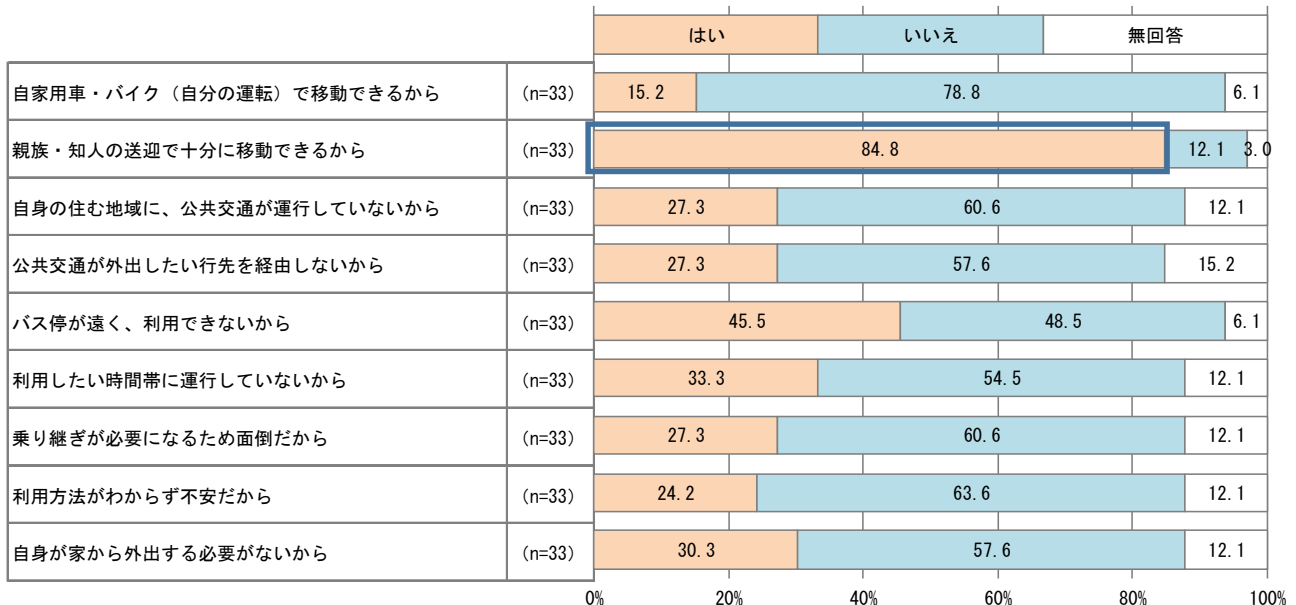
▲公共交通の利用頻度



▲公共交通の利用方法

⑪公共交通を利用しない理由

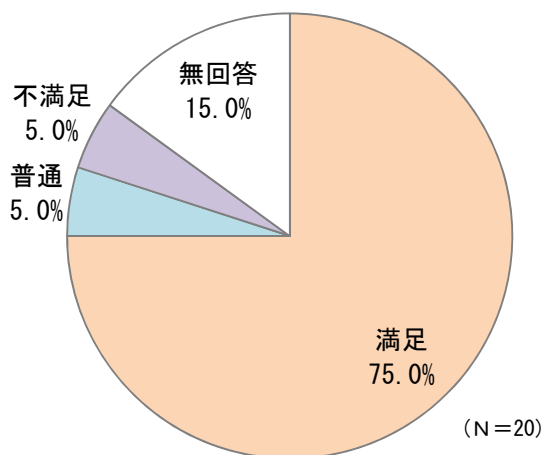
公共交通を利用しない方の意見としては 8 割以上（84.8%）が「親族・知人の送迎で十分に移動できるから」と回答しています。



▲公共交通を利用しない理由

⑫ ケアバスの満足度

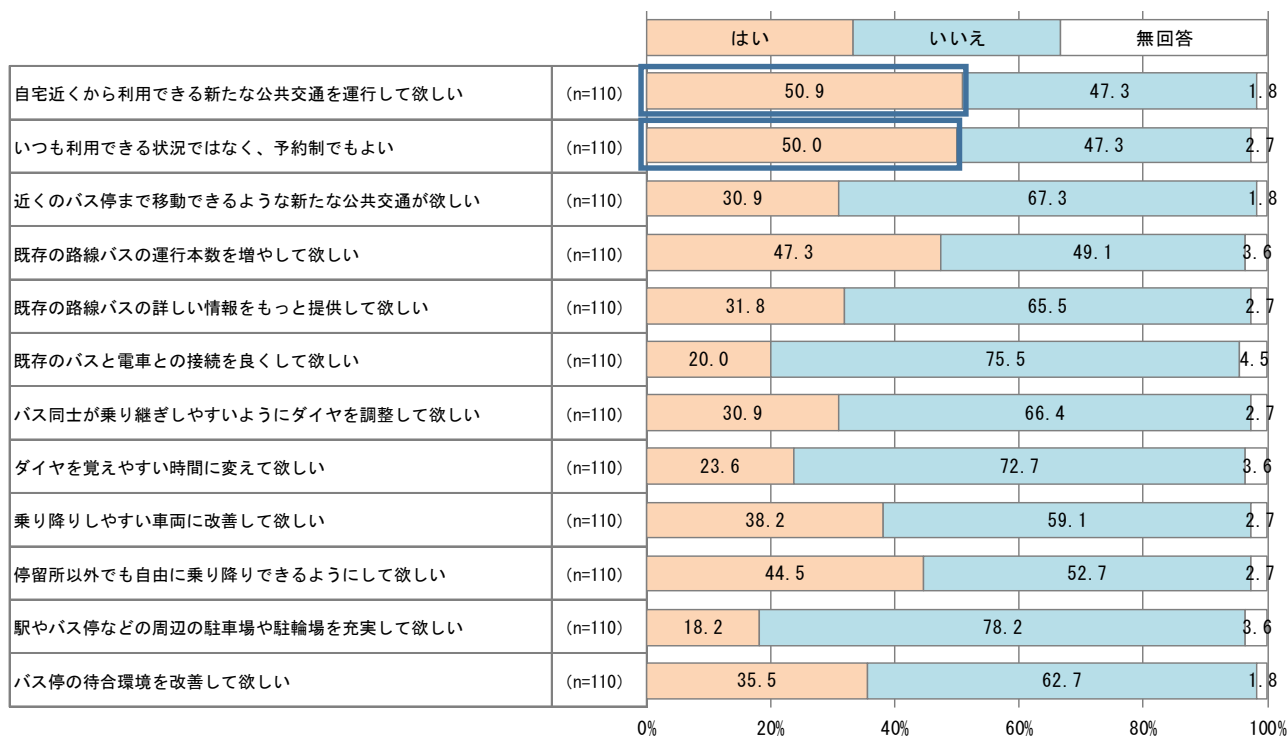
ケアバスの運行状況について利用者は75.0%が「満足」と回答しました。



▲ ケアバスの満足度

⑬ 公共交通に対する要望

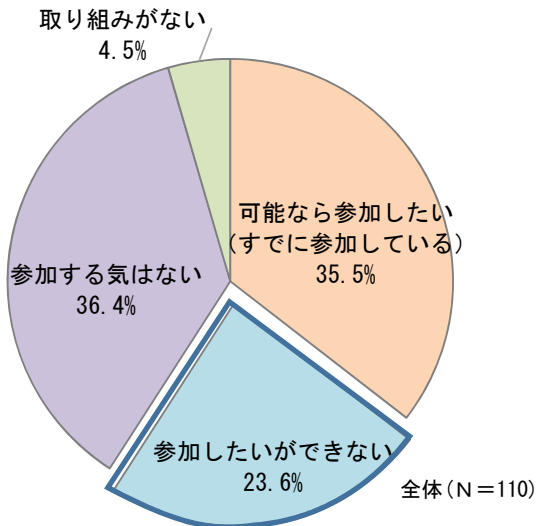
公共交通に対する要望について、「自宅近くから利用できる公共交通を運行してほしい」と回答した方が過半数（50.9%）おり、「いつも利用できる状況ではなく、予約制でもよい」と回答した方も5割います。



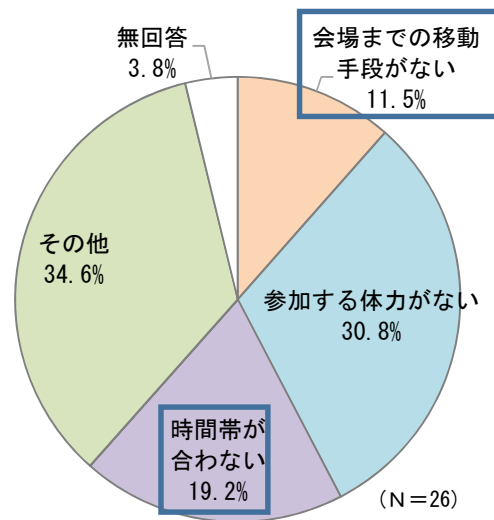
▲ 公共交通に対する要望

⑭ 取り組みや活動への参加有無

和水町が行っている生涯学習教室や各行政区で取り組んでいるお茶の間筋トレ教室といった取り組みに参加する意思について **35.5%**が「**可能なら参加したい（すでに参加している）**」と回答しています。また、「**参加したいができない**」と回答した方が **23.6%**おり、参加できない理由を尋ねたところ、**約 2 割（19.2%）**は「**時間帯が合わない**」、**約 1 割（11.5%）**は「**会場までの移動手段がない**」と回答しました。



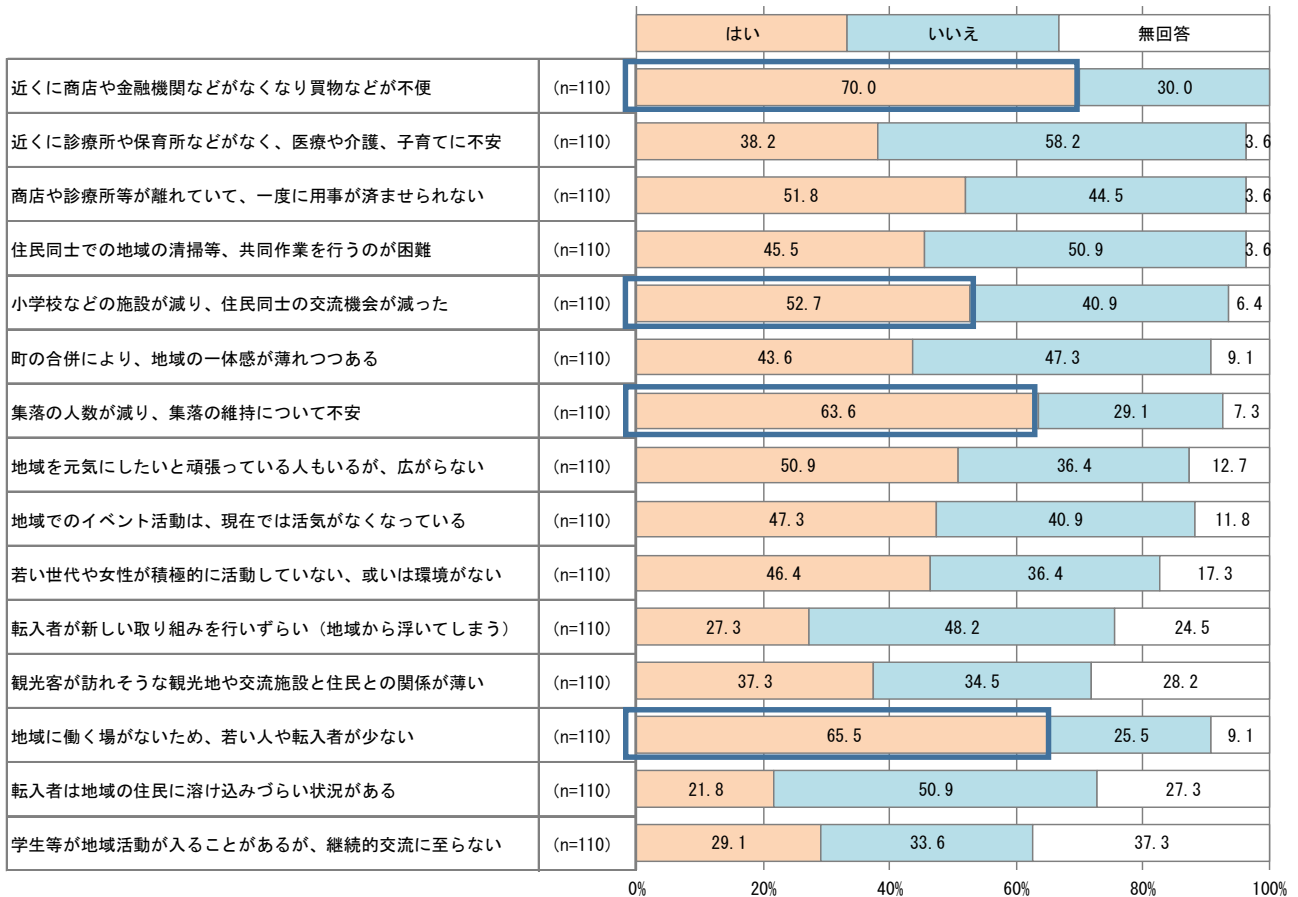
▲ 取り組みへの参加状況



▲ 参加したいができない理由

⑮ 普段の生活等で困っていること

普段の生活等で困っていることとして、7割の方が「近くに商店や金融機関などがなくなり買物などが不便」と回答しており、6割以上が「地域に働く場がないため、若い人や転入者が少ない」、「集落の人数が減り、集落の維持について不安」と回答しています。また、過半数の方が「小学校などの施設が減り、住民同士の交流機会が減った」と回答しています。



▲ 普段の生活等で困っていること

(4) 交通事業者・町内施設等へのヒアリング調査

1) 調査概要

①調査目的

利用者および事業者からみた公共交通の課題、本事業への協力可能性等を把握するための事業者ヒアリング調査を実施。

②調査日

平成 27 年 9 月 10 日（木）～平成 27 年 9 月 24 日（木）

③調査方法

直接面談方式によるヒアリング調査

2) 調査結果

●バス事業者（産交バス㈱）

【玉名営業所について】

- ・大型バスは 13 台所有し、中型バスは 33 台所有。小型バスも 10 台所有している。
- ・大型バスと小型バスは全台ステップがついている。
- ・中型バスは 33 台のうち、2 台がノンステップバスである。
- ・全体で 38 系統あり、うち和水町内を通過するのは 9 系統。
- ・乗務員は 60 名程度。平日は 50 交番、土曜は 41 交番、日祝は 36 交番。

【路線バスの利用特性】

- ・和水町内での利用者は高齢者・通学者が多い。
- ・利用の時間帯は主に朝と夕方の利用者が多い。通院されている方はお昼ごろ帰宅のために利用している状況にある。

【利用者からの要望の声】

- ・利用客からは親切な対応であると好評である。
- ・新規路線の要望として次の 2 路線が上がっている。
 “南関～坂下～江田～菊水ロマン館～玉名駅”を通るルート
 “南関～坂下～江田～東郷 or 米の岳～山鹿”を通るルート

【運行上の課題点】

- ・軽油費の高騰による運行費の上昇が問題としてある。
- ・乗務員が足りない状況があり、乗務員の確保は課題の一つである。
- ・和水町は、山鹿～南関や山鹿～熊本間等の路線で通過点となっているため、和水での利用が少ない系統でも、他の地域で利用されていることがあるため、和水だけをみて路線を見直すことは難しい。

【利用促進等のために行っていること】

- ・65 歳以上の免許返納者には運賃が半額になる割引乗車券を発行。利用者は増加傾向にある。
- ・65 歳以上で購入できるサンコーパス 65 という定期券の発売(3 ヶ月 14,000 円、6 ヶ月 25,000 円)しており、通常利用より大幅に安く利用できる。
- ・バスの乗り方教室の実施し、バス利用時に不安なく利用できるよう取り組んでいる。

【行政との協力関係】

- ・和水町 まちづくり推進課とはすぐに連絡をとれる関係ができており、今後もスムーズな関係の維持が大事だと思う。

【今後の公共交通再編への意向】

- ・ 和水町の南西に位置する玉名市では H28 年の 10 月に路線を再編する予定である。
- ・ もし乗合タクシーを導入するのであれば、路線バスとのすみわけをしっかりと欲したい。乗合タクシーを導入するにあたり路線バスの便数が減ることのないようにしてもらいたい。

●タクシー事業者（高瀬合同タクシー）

【菊水営業所について】

- ・ 小型タクシー3 台、福祉タクシー1 台の計 4 台を保有している。
- ・ 従業員は 1 日 3 名配備されている。

【利用特性について】

- ・ 全体での利用者層に偏りなく利用されている。H27 年の 8 月は 13,906 人利用。
- ・ 菊水側では H27 年の 8 月の利用者数は 1,050 人の利用があり、偏りなく利用されている。
- ・ 営業範囲は玉名市と玉名郡であり、和水町に関しては全地区に対応している。
- ・ ジャンボタクシーの利用は主に観光送迎や学校での社会研修時に利用している。
- ・ 平均的な利用料金は、玉名市側では 845 円/人であるのに対し、菊水では 1,217 円/人と割高で利用されている。
- ・ 福祉タクシーは全体で 4 台所有し、うち 1 台は菊水に配備している。
- ・ 身障者へは全国的に 1 割引を行うサービスを行っている。サービス分は行政等から補助が出るわけではなく、自己負担である。
- ・ 菊水の利用者はタクシーの配車まで時間が 15 分ほどかかっても他の地域より待っていただける方が多い。

【利用者からの要望の声】

- ・ 利用者からは特に要望の声はない。
- ・ 地域のスーパー等に防犯の目として車両の待機を依頼されることもある。

【乗合タクシー等のサービス導入に関して】

- ・ 協力させて欲しいが利用が増えても利益が減ることが懸念される。同業者や他業者が新しい交通体系を構築し、利用者がそちらにシフトされることは避けて欲しい。
- ・ 新サービスを導入するのであれば、事務の手間が増えるような予約等での電話対応等は工夫をし、できるだけ負担にならないような方法を考えて欲しい。
- ・ システムが整うのであればタクシーチケット配布がよい。

●タクシー事業者（三加和タクシー）

【営業所について】

- ・中型タクシー4台を保有しており、現在(2015.9.15 時点)2名の方が従事している。よって稼働は実質2台。

【利用特性について】

- ・1月の利用は320名ほどでほぼ午前中の利用。土日の利用は平日より少ない状況。
- ・利用者は主に高齢者であり、通院と買物をする方がほとんどである。1人あたり、片道平均1,500円程度で往復3,000円程度。
- ・バス停までの送迎は全体の15%ほどおり、固定客である。バス停は、福田、板楠。片道660～1,800円程度
- ・三加和地区での利用者は通院等で山鹿にいくことが多い。
- ・営業範囲は玉名郡である。
- ・特タクカード(山鹿タクシー系列、無料)では3万円分の利用で千円分のJTB商品券を贈呈するサービスを取り組み中。

【利用者からの要望の声】

- ・料金を安くして欲しい。
- ・近所の人に頼まずに済むので家の近くにタクシー会社があるほうがいい。

【乗合タクシー等のサービス導入に関して】

- ・どのような利用体系であっても是非協力させて欲しい。

●和水町学校教育課

【スクールバスに運行状況について】

- ・スクールバスは大型バス1台、中型バス1台、マイクロバス1台の計3台の運行を行っており、地元の輸送会社である、マツカワ物流となごみ観光に運行を委託している。
- ・補助金の対象としており、規程上、学校から居住地区までの送迎のみとなっており、学校行事等でバスを使用する場合は別契約で運行することとなっている。
- ・運行経費は年間約2,000万円で、国からは400万円ほどの補助が出ている。
- ・3つの送迎ルートを設定しており、登校時は8時頃には小学校着になるように運行されている。下校時は早い便で16時半発となっている

【児童の利用状況について】

- ・三加和小学校区の学生は全校生徒149人で、スクールバスを利用している学生は132人。
- ・学校から家まで2km以上離れた学生を対象としている。
- ・利用に際して、新入学時にスクールバスの乗り方を教えている。

【今後の取り組みについて】

- ・三加和中学校にある図書館を土日祝は地元の方を対象として、児童や生徒だけでなく、一般の方も利用できるように開放する計画がある。

【利用者からの要望の声】

- ・現状では原則として登校時と下校時は同ルートで帰宅するようになっているが、帰宅時間のスクールバスを利用して他ルートの学童保育施設まで送迎できないかと複数の児童の親から要望が出ている。

● 和水町社会教育課

【現在の取り組み状況】

- ・「ふれあい大学」という町内在住の 60 歳以上に向けた講座を毎月第 3 水曜に開いている。講座の内容はさまざまで、終活について、和水町の歴史等について学ぶことができる。参加は無料で、1 年間で 130 人ほどの参加があり、内 30 人ほどは職員による送迎を行っている。会場は中央公民館と三加和公民館を 1 月ごとに変更している。
- ・「コスモス学級」という姑を対象とした料理教室を月に 1 回程度、年間 10 回、三加和公民館で開催している。H27 年で 41 名の受講者がおり、材料費の 1000 円を参加者から徴収している。施設研修や、修学旅行も行っている。(費用は自己負担)
- ・どちらの取り組みにも参加される方もいる。

【現在の公共交通に対する意見・要望】

- ・受講者のなかには、近くの公民館で行われる場合は参加するが、遠くの公民館で行われる講座には行きたくても足がないのでいけないという方もいるため、交通の便を整えれば参加者も増えるのではないかと考えている。

【社会教育課から見た公共交通や地域の課題・意見】

- ・施設として、三加和体育館やふれあい会館、弓道場、スカイドーム等を管理しているが、どの施設も建設から 10 年以上が経ち、メンテナンスも行き届いてないので、老朽化しており、安全面で不安な部分もある。
- ・利用者数に対して、維持費が多くかかっている現状にある。

● 和水町商工観光課

【現在の取り組み状況】

- ・道の駅を拠点とした、経済のみならず、地域活性化を考慮した地域づくりを行っていく計画があり、50 年後を見据えた「理想の田舎」を目指している。
- ・肥後民家村を活用し、工房を設けている。住民が自発的に行動を起こしたり、アーティスト等の活動の場としたりして、幅広い利用を目指し地域の活性化を図っている。

【現在の公共交通に対する意見・要望】

- ・公共交通のイメージを変える、例えば、「公共交通を利用する人はカッコいい」等のイメージを持たせることで利用促進に繋がるのではないかな。

【今後の取り組みについて】

- ・福岡のみならず、国外の観光客もターゲットとして、町外からの集客を増やすために、プロモーション活動を行っていく必要がある。
- ・観光客の増加に向けた、町の自然を堪能できるようなサイクリングコースを設けるということも考えられる。

●和水平町観光協会

【現在の取り組み状況】

- ・福岡県に住んでいる女性を対象とした、観光モニターを実施。参加者からの意見として、自家用車で訪れない場合は駅やインターから交通手段がないため、移動に不便を感じるとの声があった。

【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・温泉や自然、八つの神様を結ぶ観光ルートとなるように公共交通の導入を行えば、観光客増加の見込みがある。
- ・町内の宿泊施設とのタイアップを行い、観光客が公共交通を利用すれば、特典が付く等のサービスを行ってはどうか。
- ・朝、夕に観光地を結ぶ公共交通手段が1本ずつあれば、利用が増える可能性がある。
- ・駐車場のない空き店舗周辺の駐車場の整備を図ることで、空き店舗の利活用が行いやすくなるのではないか。
- ・タクシー会社による、観光タクシーの運営を行ってはどうか。

●和水平町健康福祉課

【現在の取り組み状況】

- ・タクシーチケットの助成を行っている。年金受給額が80万円以下で、要支援2以上の方、町内に1親等がない方を対象者としており、20名ほど登録されている。サービス内容は500円の割引券を月に6枚配布し、繰越の利用はできないようにしている。
- ・買物支援・ホームヘルパー派遣を行っている。1時間200円で利用でき、買物や掃除のサービスを行う。

【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・乗り継ぎが行えるバス停が少ないので移動に不便を感じる。
- ・小さな拠点づくりとしては拠点ごとに待合室等のなんらかの滞在できるスペースを設ける必要がある。
- ・和水平町を南北に結ぶバス路線がないため、南北の移動を可能にする必要がある。
- ・買物はなるべく自分で選んで行いたい方が多い。
- ・三和には金融機関が少ないため、金融機関に手軽にいけない方が多い。

●和光町社会福祉協議会

【現在の取り組み状況】

- ・「通所介護サービス」を介護認定外の方を対象に行っている。サービス内容は、認知症や介護の予防を目的としており、福祉センターで、毎週火曜と木曜行われている。利用料は1回あたり500円で昼食代も含まれている。希望者の方は入浴もできる。送迎も行っている。参加者は菊水で45名ほど、三加和でも45名ほど。
- ・「男性料理教室」を毎月行っている。三加和地区は第4金曜、菊水地区は第3金曜に開催している。参加者は2地区合わせて20名ほど。参加費は材料代の300円を頂いている。

【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・小さなものでもいいので、商店が町内に点在しているほうがよい。現状ではコンビニやスーパーが数店あるのみ。近くに商店があれば、買物を楽しむことができ、外出機会の増加につながると思われる。
- ・高齢者でも好きな時間に好きなものを選んで買えることが望ましいのではないか。

【今後の取り組みについて】

- ・通所介護サービス利用者を送る際に、近くにある緑彩館(生鮮食料店)に立ち寄ったところ、利用者の買物が弾み、好評であった。移動販売でも良いので、利用者が各種サービスと買物を一度にできる機会を増やしていくことも考えていきたい。
- ・家に入浴施設がない方へお風呂利用の送迎を行っていききたい。ただし現状では施設の利用は介護予防事業参加者のみとなっているため、一般開放での利用は厳しい。

●和光町老人クラブ連合会

【現在の取り組み状況】

- ・幹部会、女性幹部会を行っている。

【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・仮に路線バスが廃線になることで、買物と通院に支障をきたす方が老人会の会員に4名ほどおり、減便でも良いので廃線は避けて欲しいと切望される方がいる。
- ・菊水町と三加和町の合併により、南北に長い和光町となったが、南北に公共交通が走っておらず、町内の移動が行いづらい。南北に移動できる手段の確保を望む。
- ・スクールバスの運行時間外を利用して、有償でもよいので一般利用を行うことはできないのか。
- ・以前あった循環バスがなくなったことにより、公民館の行き来ができなくなり、生涯学習講座を受けられなくなった方もいる。

●和水平地域婦人会

【婦人会について】

- ・婦人会のほとんどの方が自家用車を利用し、免許を持たない方は自家用車を所有している方に乗せてもらい、定例会等には集まっている。

【現在の取り組み状況】

- ・交通安全母の会、献血推進、結核予防等の呼びかけ運動や募金活動等を行っている。

【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・普段利用することはないが、利用者のことを考えると、目的地まで行きはバス、帰りはタクシーというような使い方ができるよう、交通網の整備を行って欲しい。

【今後の取り組みについて】

- ・各種団体である老人会や商工会等との意見交換や交流を行い、横の繋がりを太くして、相互扶助の関係を構築していく必要がある。
- ・今後の担い手が不足しているので、リーダー性のある女性を育てていく必要がある。

●和水平商工会

【現在の取り組み状況】

- ・商栄会に菊水地区に所在している 30 軒の商店が加盟している。年末の大売出しや抽選会等のイベントを行っている。

【公共交通や地域の課題・意見について】

- ・スクールバスの運行時間外を利用して一般の方向けの有償輸送利用はできないのか。
- ・シルバー人材として運転を行える人材は揃っているので、雇用を含めて、輸送サービスの見直しも考えられるのではないか。

【今後の取り組みについて】

- ・空き店舗やシャッター街化している江田商店街の利活用を考えている。

●菊水ロマン館

【現在の営業状況について】

- ・道の駅の営業時間は 9 時から 20 時まで。
- ・道の駅として農産物等の販売、レストランでの食事だけでなく、温泉施設での入浴、すぐ横を流れる河川ではカヌー体験を行うことができ、また、キャンプ場もあるため、バーベキューを行うこともできる。

【店舗の利用者の特性について】

- ・道の駅の利用は 1 日あたり平日で 500 人ほど、休日で 700～1,000 人ほどの利用がある。
- ・温泉施設の利用者は、朝方はトラック等の長距離運転手の利用が多く、夕方には送迎バス等を利用や、自家用車で来られた地元の高齢者の利用が多い。
- ・農産物等の購入は地元住民の利用が多く、休日になると、観光客等の利用が多い。
- ・福岡からの利用者はお土産に野菜等を購入していく。
- ・休日の利用では 150 台分ほどある駐車場が満車になることもある。
- ・ゴルフ場がそばにあるので、ゴルフをしてからロマン館を利用される方もいる。

【温泉バスの運行状況について】

- ・菊水ロマン館独自に無料でそれぞれの地区を曜日毎に巡回する、温泉利用者用の送迎バスを運行している。

月曜日…玉名市小田地区

水曜日…菊水南地区

木曜日…菊水東地区

- ・スロープをつけたノンステップバスを所有している。
- ・運行は 10 時過ぎにはロマン館に到着し、16 時半に出発する。
- ・バス停等はなく、地区や集落の要所に集まって、乗車してもらうようにしている。
- ・送迎バスの利用は 1 本の送迎で 10 人ほどの利用があり、利用者のほとんどが高齢者である。

【利用促進・経営改善のために行っていること】

- ・カヌー体験者やキャンプ場利用者には入浴の割引券を配布している。

●丸美屋

【現在の営業状況について】

- ・三加和温泉側では、入浴のほかに、お食事処とお土産売り場がある。
- ・入浴料は 400 円だが、町民は 18 時以降に 300 円と安くなるため、18 時～19 時が利用のピーク。また水曜日は日中も 300 円で入浴できる。
- ・緑彩館では、主に生鮮食品や加工品等の販売を行っている。

【店舗の利用者の特性について】

- ・来場者数は温泉施設と緑彩館で述べ 400～500 名ほどで、75%ほどは高齢者である。
- ・緑彩館に関しては、90%ほどが高齢者の利用となっている。土日は家族連れも増えるが以前に比べると、福岡からの来場者が減ってきている。
- ・温泉施設入口に路線バスのバス停があり、1 日 7 本の便があるものの、ほとんど利用者はいない。

【利用促進・経営改善のためにやっていること】

- ・毎月イベントの開催をしている。スカイドームで行われる送迎付のテニス大会や、老人会を対象とした送迎付のペタンク大会を行っている。テニス大会は 35 名ほど、ペタンク大会は 25 名ほどの参加がある。
- ・老人会の利用では、乗合わせ場所を決め、その地点まで送迎を行っている。
- ・年に 4 回は温泉施設側の休憩スペースを利用し、カラオケ大会を開催している。
- ・毎月 26 日に温泉利用者には、次回半額券を配布している。
- ・福岡県南部からの利用者を増やすため、広告活動を行っている。

【今後の取り組みについて】

- ・菊水ロマン館とは連携を行うことも可能。例えば、施設が菊水と三加和にあるので、それぞれのイベント開催時にはお互いの地区から送迎を行うなど。
- ・路線バスとのタイアップも可能。ただし、システム化をしっかりと行って欲しい。
- ・ふるさと納税者には、好待遇を行うなども可能。
- ・三加和温泉周辺には温泉施設の多いため、ひとつの拠点化としていくことも可能。しかし、緑彩館では地元の食品を並べたいが商品がそろいづらい面があるため改善が必要。

●菊屋

【現在の営業状況について】

- ・旧菊水側の営業時間は、朝 9 時から開いており、旧三加和側は 9 時半から開いている。

【店舗の利用者の特性について】

- ・旧菊水側の店舗では 1 日に 800 人ほどの利用があり、その内の約 50%が高齢者である。
- ・旧三加和側の店舗では 1 日に 350 人ほどの利用があり、その内の約 60%が高齢者である。
- ・両店舗において、高齢者による利用は午前中が多い。だいたいビニール袋 1 つ分の購入をされる。買いだめをされる方は段ボール箱いっぱい購入していく。
- ・来店は車での利用者が多く、歩いてくる利用者はほとんどいない。

●和光町立病院

【現在の営業状況について】

- ・診療は月曜～金曜で行っており、受付時間は午前が 8 時半から 11 時半、午後は 13 時から 16 時半まで。診療時間は午前が 9 時から 12 時まで。午後が 14 時から 17 時 15 分まで。
- ・手術が少ないので午前中も午後も診察をしている。午後の診察は浸透していないせいか利用者が極端に少ない。
- ・病床数は、一般の方が 56 床、療養の方が 42 床で合わせて 98 床。

【ケアバスに運行状況について】

- ・手でステップを操作するマイクロバスを 1 台所有している。
- ・曜日毎に校区や地区を変えて運行を行っている。
月曜日…菊水地区
火曜日…菊水地区、坂本地区、緑校区、神尾校区
水曜日…春富校区、神尾校区
木曜日…菊水地区、春富校区、神尾校区
金曜日…猿懸地区、緑校区、神尾校区
- ・一月の運行経費は人件費と燃料費で 13 万円ほど。
- ・利用者はバス停まで歩ける町内の方、自分で受付を行える方の対象としている。
- ・1 日あたり 15 名ほどの利用がある。
- ・運行ルートは何か基準等を設けて決めているわけではなく、H3 年から行われているリハビリ送迎の延伸として行っている。

【施設の利用者の特性について】

- ・診察外来者数は H24 で 26,200 人、H25 年で 26,728 人、H26 年で 27,431 人、と増加傾向にあり、常勤の医師が 1 名増えたことによる患者の増加と思われる。
- ・ケアバス利用者はほとんど固定で、H26 年の利用者数は、自地域から病院までの利用が 1,846 人、病院から自地域までの利用が 1,887 人である。

【利用者からの要望の声】

- ・山鹿等の病院にかかっており、かかりつけ医を変更しづらいため、町立病院にかかりづらい。
- ・ケアバスを利用したくても、住んでいる地区で運行曜日が違うため、利用できない。例えば、金曜の脳神経外科に通っているがケアバスは違う曜日に回ってくる等。

【今後の取り組みについて】

- ・午後の診察に来る患者が増えれば、午後のケアバス運行も検討する必要がある。

●菊水郵便局

【現在の営業状況について】

- ・宅配や貯金、保険等の手続きが行える窓口の営業は 9 時～17 時。
- ・ATM の利用は 9 時～18 時。
- ・運搬車が 2 台とバイクは 10 台を所有。

【施設の利用者の特性について】

- ・1 日あたり 80 名ほどの利用がある。
- ・利用者は主に高齢者である。カードをお持ちの高齢者も多いので ATM 利用も頻繁。
- ・バス停は近くにあるが、バスを利用して訪れる方は 2～3 人ほど。
- ・郵便局からはタクシーを利用して移動される方が増加傾向にある。
- ・手続き等の待ち時間に高齢者の交流の場となることもある。

【施設からみた公共交通や地域の課題・意見について】

- ・もし、乗合タクシーやコミュニティバスを導入するなら、告知の方法や、時間調整には十分に配慮すべき。
- ・拠点形成に関しては、拠点ごとに ATM の設置を検討していきたいが設備設置費用でも 500 万円ほどかかるため何かしらの補助が必要となる。

【今後の取り組みについて】

- ・現在、長崎で試験的に独居老人等を対象とした、「見守り隊」として、地域の見守りサービスを行っている。電球の交換など、ちょっとした家庭での困りごとへの対応など。今後は全国的に行われていく可能性がある。
- ・四国ではイオンと連携しており、イオンの商品を郵便局が配達するシステムもある。

●三加和郵便局

【現在の営業状況について】

- ・宅配や貯金、保険等の手続きが行える窓口の営業は 9 時～17 時。
- ・ATM の利用は 9 時～18 時。
- ・運搬車が 2 台とバイクは 5 台を所有。
- ・集まった郵便物は、午前と午後の 2 回、玉名郵便局へ配送。

【施設の利用者の特性について】

- ・営業範囲は旧三加和町内。
- ・1 日あたりの利用者数は約 30～50 人であり、主に午前中に高齢者が訪れる。全体の 7 割は高齢者で、宅配利用は 5 分ほど、各種手続きは 1 時間ほど。
- ・手続き等の待ち時間に高齢者の交流の場となることも。
- ・郵便局の目の前にバス停があり、1 日あたり 5～6 名ほど乗降されている。夏などはバスを待っているとき、郵便局内で待ったりもしている。
- ・貯金等の手続きに関しては、利用者から連絡を受けるか、郵便局から連絡をしての訪問サービスを行っているが、マニュアルでは、1 度訪問し、必要金額を伺い、現金を取りに戻り、再度訪問し、お渡しするという形になっている。
- ・高齢者では、友人に送迎してもらって郵便局を利用する方が増加している。

【施設からみた公共交通や地域の課題・意見について】

- ・空き家が多いため、利活用できるようにすべき。所有者には空き家バンクへの登録を促す必要がある。郵便局側がボランティアであっても大々的に広告を行っていくのは本社の許可等があるため、行うことは非常に厳しい。